

2023 第31期

江東区パルカレッジ記録集

はばたく準備、始めよう

～なりたいワタシに近づく8日間～



江東区観光キャラクター コトミちゃん



江東区

## パルカレッジの沿革

平成 3 年	「江東区女性センター」開設
平成 5 年	「女性大学」開講
平成 9 年	「パルウイメンズカレッジ」に名称変更
平成 16 年	江東区男女共同参画条例制定 男女共学に変更、「パルカレッジ」に名称変更

## 記録集発行に寄せて

令和 5 年度のパルカレッジでは、第 31 期生 18 名の方々に修了証書をお渡ししました。修了生の皆さん、あらためて終了おめでとうございます。

江東区は、性別に関わらず一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、誰もがその個性と能力を発揮していく「男女共同参画社会」の実現を目指しています。そのためには、地域活動において男女共同参画を推進する核となる地域リーダーの育成が欠かせません。パルカレッジでは、そうしたねらいから、身近な暮らしの中における事象にスポットをあてる講座を通して、受講生自身が「固定的性別役割分担意識」に気付き、パルカレッジでの学びを広く地域に還元していただくことを目指し、講座を実施しております。講義にグループディスカッションを取り入れることで、受講生同士が積極的に交流を図り、意見交換を通じて学びを深める内容となっております。

この記録集は、今期の講義記録及び受講生の方々の感想を掲載し、修了生の皆様の今後の活動の原点となるとともに、講座を受講していない方にも広くパルカレッジの学びに触れていただくことを願って作成いたしました。

修了生の皆様や、この記録集を手にとられた方が、家庭や地域、職場、その他様々な場面で、パルカレッジの学びを活かし、活躍していかれることを願っております。

最後になりましたが、本講座の講師を務めてくださいました荻野佳代子先生、池田和嘉子先生、谷岡理香先生、加藤秀一先生、佐光紀子先生、吉祥眞佐緒先生、認定特定非営利活動法人 R e B i t の講師の先生方に心より厚くお礼を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

令和 6 年 3 月

江東区男女共同参画推進センター

## 《目 次》

### 第31期 江東区パルカレッジについて

- ◆実施要項 … 7
- ◆カリキュラム … 8
- ◆リーフレット … 9
- ◆取り組み … 11

### 第31期 江東区パルカレッジ講義記録

- ◆講義記録 … 15
- ◆江東区パルカレッジを終えて … 35
- ◆フォトメモリー … 38

### 第31期 江東区パルカレッジ公開講座

- ◆講義記録 … 41
- ◆受講アンケート集計 … 42

第31期

江東区パルカレッジ  
について

## 第31期 江東区パルカレッジ実施要項

目的	誰もが固定的な考え方の枠にとらわれず、自分らしさを大切にした多様な生き方ができる社会の実現を目指し、男女共同参画の意識を持って地域で活動できる人材を育成する。
学長	江東区長 木村 弥生
開講期間	令和5年5月18日(木)～7月13日(木) 全8回
日時	木曜日(6月9日のみ金曜日) 午前10時～正午
会場	男女共同参画推進センター 第1・2・3研修室
定員	30名
受講料	無料
保育	幼児(満1歳6か月～就学前)
申込み方法	電話、窓口、ハガキ、FAX、インターネットにて ハガキ、FAXの場合は ① 江東区パルカレッジ ② 氏名(ふりがな) ③ 住所 ④ 電話番号(FAX番号) ⑤ メールアドレス ⑥ 生まれ年(西暦) ⑦ パルカレッジ受講経験の有無 ⑧ 全8回参加の可否 ⑨ (1歳6か月未満のお子さんとの別室同伴受講希望の方のみ) 同伴希望・同伴するお子さんの人数・生年月日 ⑩ (保育希望の方のみ) お子さんの氏名(ふりがな)、生年月日、 男女共同参画推進センター保育室利用経験の有無
申込締切	令和5年4月23日(日) 必着
申込み・問合せ	江東区男女共同参画推進センター 〒135-0011 江東区扇橋三丁目22番2号(パルシティ江東内) 電話 03(5683)0341 FAX 03(5683)0340

## 第31期 江東区パルカレッジカリキュラム

日程：令和5年5月18日(木)～7月13日(木) 全8回 (いずれも10:00～12:00)			
会場：男女共同参画推進センター 第1・2・3研修室		定員：30名	
No.	日程	カリキュラム	講師
1	5/18(木)	『開講式』 『ワタシの中の性別役割分担意識を知る』	神奈川大学人間科学部教授 荻野 佳代子
2	5/25(木)	『身近にあるジェンダー・バイアス ～それって本当にアタリマエ?～』	公益財団法人日本女性学習財団 学習事業課長 池田 和嘉子
3	6/1(木)	『見えないものが見えてくる ～メディアの見方、とらえ方～』	メディア総合研究所所長 谷岡 理香
4	6/9(金)	『ワタシたちをとりまく社会の変化 ～ジェンダーへの視点を中心に～』	明治学院大学社会学部教授 加藤 秀一
5	6/22(木)	『家族みんなで楽しく暮らす！ ～ご機嫌に過ごすための家事半分術～』	家事研究家 佐光 紀子
6	6/29(木)	『身近にあるDVに気付く ～自分も相手も尊重し合える関係を 作るために～』	一般社団法人エープラス代表理事 自治体DV専門相談員 吉祥 眞佐緒
7	7/6(木)	『多様な性ってなんだろう？ ～互いの違いを受け止めあえる社会を 目指して～』	認定特定非営利活動法人 ReBit (リビット)
8	7/13(木)	『自らのライフキャリアをデザインする』 『閉講式』	神奈川大学人間科学部教授 荻野 佳代子
	10/1(日) 14:00～16:00	公開講座 講演会『女性が働くということ ～私のアナウンサー人生～』	キャスター アナウンサー 京都産業大学客員教授 吉川 美代子



# はばたく準備、始めよう

～なりたいワタシに近づく8日間～

家庭、子育て、仕事。追われる毎日。後回しにしてしまう自分のこと。  
ワタシだって輝きたい！と思ったら週1回、自分の時間を自分のために使いましょう。  
江東区パルカレッジでは、無意識に刷り込まれた先入観に気付き、見直すことで  
自分自身の視野と可能性を広げるキッカケとなる連続講座を開催します。  
新しい視野を手に入れて、新しい未来へ。はばたく準備の場が、ここにあります。

日  
程

5月：18日・25日

6月：1日・9日・22日・29日

7月：6日・13日（6月9日のみ金曜日、他は木曜日）

全8回 10:00～12:00

会場：男女共同参画推進センター（パルシティ江東内）3階第1・2・3研修室

定員：30名

受講料：無料

保育：幼児（満1歳6か月～就学前）無料（10名程度）

※1歳6か月未満のお子さんは別室で同伴受講ができます（6名程度）

お申込時にあわせてお申し込みください。

お申込み  
内容等は  
裏面へ

## パルカレッジ 公開講座

## 女性が働くということ～私のアナウンサー人生～

毎回大好評のパルカレッジ公開講座。今年はTBS初の女性ニュースキャスターとして活躍の場を切り開き、管理職としても職務を全うされた吉川美代子さんに、女性の働き方についてこれまでのご経験を交えてお話いただきます。パルカレッジ受講生は優先的に受講できます！※公開講座のみの受講者募集は8～9月の予定です。

令和5年10月1日（日）

講師：吉川美代子（キャスター・アナウンサー・京都産業大学客員教授）

1954年生まれ。神奈川県出身。1977年にTBSに入社後、37年間アナウンサー、キャスターとして活躍する一方、TBSアナウンススクール校長を12年間務め、2014年に定年退職。2017年より京都産業大学現代社会学部客員教授も務める。

会場：男女共同参画推進センター（パルシティ江東内）1階レクホール

定員：200名（予定・定員を超えた場合は江東区民を優先して抽選）





# 第31期江東区パルカレッジ



パルカレッジは、男女共同参画の視点から、自分の生き方や家族、地域、社会との関わりについて学び、考え、実践へとつなげる連続学習講座です。講義のほか、グループディスカッションも予定しております。

※カリキュラム等は変更になる場合があります。

No.	日程	カリキュラム	講師	内容
1	5/18 (木)	開講式 ワタシの中の性別役割分担意識を知る	神奈川大学人間科学部教授 荻野 佳代子	自分の中にある性別役割分担意識を知り、幼少期から周囲の人や環境に影響を受けながら形成されてきた心理について学びます。
2	5/25 (木)	身近にあるジェンダー・バイアス ～それぞれ本当にアタリマエ？～	公益財団法人日本女性学習財団 学習事業課長 池田 和嘉子	男はこうあるべき、女はこうあるべきという固定観念をジェンダー・バイアスといいます。私達の生活の中で無意識に刷り込まれているジェンダーの思い込みに基づき、それを見直すことで自分の可能性を広げるきっかけにしましょう。
3	6/1 (木)	見えないものが見えてくる ～メディアの見方、とらえ方～	メディア総合研究所所長 谷岡 理香	私たちが普段何気なく目にするテレビ番組やCMには、様々なメッセージが隠されています。メディアから発せられる数多の情報を、受け身にならず、能動的に読み解きます。
4	6/9 (金)	ワタシたちをとりまく社会の変化 ～ジェンダーへの視点を中心に～	明治学院大学社会学部教授 加藤 秀一	社会の変化の中で、人々のライフスタイルも変わってきました。よく耳にする「昔は良かった」は本当なのか？社会学の観点から、私たちの生き方の変化やこれからの課題を学びます。
5	6/22 (木)	家族みんなで楽しく暮らす！ ～ご機嫌に過ごすための家事半分術～	家事研究家 佐光 紀子	「きちんと家事をしなくちゃ…」「ちゃんと子育てしなくては…」そんな「思い込み」にとりつかれていませんか？国内における家事の背景や海外の事例を参考にしながら、自分も家族もご機嫌に暮らせる家事への向き合い方について、みんなで考えましょう。
6	6/29 (木)	身近にあるDVに気付く ～自分も相手も尊重し合える関係を作るために～	一般社団法人エーラス代表理事 自治体DV専門相談員 吉祥 眞佐緒	DVは心にも体にも大きな傷を負う身近で深刻な問題であり、その種類は身体的な暴力に限らず、様々なものがあります。自分自身やことも、身近な人がDV被害者にも加害者にもならないために、実情や対策を知り、尊重し合える関係を築く方法を考えましょう。
7	7/6 (木)	多様な性ってなんだろう？ ～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～	認定特定非営利活動法人 ReBit (リビット)	LGBTQという言葉はよく聞けれど、LGBTQってなんだろう？自認する性やからだの性、好きになる性や表現する性など、性のあり方は人の数だけあります。多様な性について正しく理解し、誰もが生きやすい社会のあり方について考えましょう。
8	7/13 (木)	自らのライフキャリアをデザインする 開講式	神奈川大学人間科学部教授 荻野 佳代子	7回の講義で身につけた内容を踏まえ、自分の生き方をより多様な視点からとらえ直し、家庭生活や仕事だけでなく、自分の好きなことやチャレンジしたいことも含めて、今後の人生における自分らしいライフキャリアについて考えてみましょう。
10/1 (日)	公開講座 女性が働くということ～私のアナウンサー人生～	キャスター アナウンサー 京都産業大学客員教授 吉川 美代子	TBS初の女性ニュースキャスターとして活躍の場を切り開き、管理職としても職務を全うされた吉川美代子さんに、女性の働き方についてこれまでのご経験を交えてお話しいただきます。	

## — 多様な視点を持ち、みんなで作る江東区 —

江東区パルカレッジは、本区における男女共同参画推進施策の主要事業の一つとして平成5年に始まった「江東区女性大学」をその起点とし、以来30年の歴史を持つ伝統ある長期講座です。パルカレッジを修了された多くの方が、区の審議会をはじめとする様々な地域活動に参画し、まちづくりの大きな力となっていただいております。

このパルカレッジは、身近な暮らしにスポットをあて、無意識の思い込みに縛られることなく、ご自身の視野と可能性を広げるきっかけとなるカリキュラムになっております。是非、パルカレッジの趣旨をご理解の上、皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

江東区パルカレッジで学び、得た知識を生かしていただき、発展する江東区を共に築いていきましょう。

令和5年 春



江東区パルカレッジ学長  
江東区長 山崎孝明

### 第31期江東区パルカレッジ受講申込方法

- 電話・窓口・ハガキ・FAX・インターネットにてお申込みいただけます。インターネットからのお申込はこちら→
- ※ハガキ・FAXの場合は
  - ①江東区パルカレッジ ②氏名・ふりがな ③住所 ④電話番号（FAX番号） ⑤メールアドレス ⑥生まれ年
  - ⑦パルカレッジ受講経験の有無 ⑧全8回参加の可否
  - ⑨（1歳6か月未満のお子さんとは別室同伴受講希望の方のみ）同伴希望・同伴するお子さんの人数・生年月日
  - ⑩（保育希望の方のみ）保育希望・お子さんの氏名・ふりがな・生年月日・男女共同参画推進センター保育室利用経験の有無以上をご記入の上、4月23日（日）必着でお送りください。

- 応募多数の場合はパルカレッジ未受講者・全8回参加できる方を優先し、抽選となります。

- ・当落選に関わらず、結果はメールまたは郵送にてお知らせいたします。
- ・定員に満たない場合は、引き続き申込順にて受付いたします。

- 公開講座のみの受講生募集は8～9月の予定です。

- お申込み・お問合せ

江東区男女共同参画推進センター  
〒135-0011

江東区扇橋三丁目22番2号（パルシティ江東内）

TEL：(5683) 0341 / FAX：(5683) 0340

受付時間：9時～21時

休館日：第2・4月曜日（祝日は開館）

HPアドレス：<https://www.city.koto.lg.jp/kurashi/jinken/danjo/center/kouza/index.html>



#### 交通案内

都営新宿線・東京メトロ半蔵門線  
「住吉駅」下車（B1出口）徒歩12分

都営バス  
門前仲町、木場、東陽町、豊洲方面及び、錦糸町方面からお越しの場合

- 東22系統 錦糸町駅前 → 東京丸の内北口（扇橋二丁目下車 徒歩6分）
- 錦22系統 錦糸町駅前 → 臨海車庫（扇橋二丁目下車 徒歩6分）

東砂6丁目、亀高橋、境川及び、清澄・白河方面からお越しの場合

- 秋26系統 葛西駅前 → 秋葉原駅前（扇橋三丁目下車 徒歩3分）

お車でのご来館はご遠慮ください。



### 第31期 江東区パルカレッジの取り組み

社会的・文化的に形成された性別役割分担のことを「ジェンダー」と言います。わたしたちは気付かない内に「男性（男の子）はこうあるべき」「女性（女の子）はこうあるべき」というジェンダー意識を、親や祖父母、学校やテレビなど、周囲の身近な環境から知らず知らずに刷り込まれていき、さまざまな格差・障害が生じたり、こどもの可能性を狭めていたりすることがあります。

パルカレッジは、いつの間にか刷り込まれている身近なジェンダーについて学ぶことのできるカリキュラムとなっております。その学びから得た気づきを自身の地域へと還元し、次世代を担うこども達がジェンダーの視点を意識し、自己形成をしていける環境づくりへとつながることをねらいとし、企画いたしました。

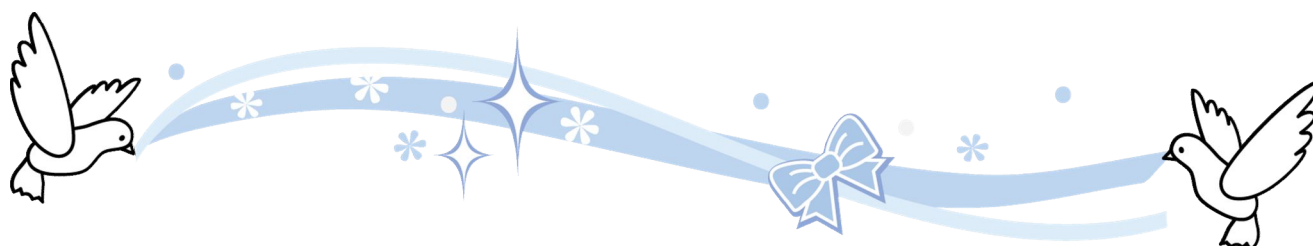
第31期の皆様は、「様々な生き方や考え方を学び、自分自身の価値観を広げられれば」「新しい視点と何か自分に可能性がないか見付けられるきっかけになったら」「講義のみの受け身ではなくグループディスカッションがあることも魅力的で、他のメンバーの意見や考えを聞いて、自分自身に落とし込み、夫やこどもにも共有していきたい。」など新たな気づきを得たり、他の方と一緒に学び合う場所を求めて参加されました。

●受講人数：19名

30代：8名 40代：6名 50代：4名 60代：1名

●修了生人数：18名

30代：8名 40代：5名 50代：4名 60代：1名



第31期

江東区パルカレッジ

講義記録

## ワタシの中の性別役割分担意識を知る

講師：神奈川大学人間科学部教授 荻野佳代子

【プロフィール】キャリア・ジェンダー・ストレスをキーワードに、看護職や教員など“対人援助職”を対象にした「バーンアウト（燃え尽き症候群）」について研究。最近の研究テーマでは「ワーク・ライフ・バランスとバーンアウト」がある。また、男女共同参画の視点からライフキャリア教育に取り組む。



### ■性、役割分担意識とは

性別というそもそも、生物学的な性別と、社会・文化的な性別に大きく分けることができます。今日のテーマの社会・文化的な性別についてですが、私たちは性別に関して、社会・文化的な意味づけを持って情報を受け止めながら、あるいは発信しながら生活をしています。このことを「ジェンダー」と呼んでいます。例えばトイレ。青が男性、赤が女性。でも、色は本来、性別と関係がない。けれども、生活の中に入り込んでいて、瞬時にそれを性別に結びつけて判断しています。もともとは性別に関係ないものも生物学的な性別に結びつけて考えられることが非常に多く、性別に関する情報を不変なものとして、性別は男か女の二分法的・器質的に捉えられてきました。

「ジェンダー」には、色々な側面があります。1つ目は、性同一性（ジェンダー・アイデンティティ）。自分自身が性に関してどう自認するかという自己認識のことです。女性か男性かという捉え方が典型的ではありますが、両性（男女いずれでもある）、中性（男女の間である）、無性（男女いずれでもない）という性自認もあります。2つ目は、性役割。これは、性に関する社会的な役割、いわゆる男らしさ、女らしさ。「外科医といえば男性で、看護師さんといえば女性でしょう」というような性と社会的な役割が結びついているものです。3つ目は、性的指向。性愛の対象ですね。異性愛、同性愛、両性愛、無性愛などがある。大きく分けても、ジェンダーにもこの3つの側面があります。そういったことを考えていくと、性別というのは、多様で連続的なものだと考えることができるということです。

国の男女共同参画基本計画では、「固定的性別役割分担意識」という言葉が出てきます。これは、男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにも関わらず、「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方であると説明されています。社会全体において、固定的性別役割分担意識や無意識の思い込みというのが存在していて、これが男女共同参画社会に向けての非常に大きな課題であるということが指摘されています。

### ■ステレオタイプとは

「ジェンダー・ステレオタイプ」とは、「社会からの期待として人々が共有する、女らしさや男らしさに関する思い込み」のことです。性格、能力、態度、身体的特徴、様々な側面があります。「ステレオタイプ」というのは、ある集団に共通して持っていると思いこまれている特徴を指します。ステレオタイプの心理として非常に特徴的なのは、集団の中でその特徴と一致しない人がいても、一致するものとしてみなされたり、例外と扱うことで、ステレオタイプは維持されやすい。また、非常に無意識のところに深く関わっているようなものも多く、過去の経験や習慣、環境から生じる、自分自身が気付かず持つ、偏った見方や考え方を「アンコンシャス・バイアス」（無意識の偏見）と言います。アンコンシャス・バイアスというのは、おそらく誰もが持っています。その中で、個性を発揮しやすい社会ということを考えたときに、その思い込みにまず1つ1つ気付いていくことが、小さな一歩として大事なのかなと思います。

## ■受講生の感想（抜粋）

- 初回から衝撃を受けました。比較的オープンな考えを持ち、生活してきたつもりでしたが、荻野先生のお話では、今迄の自分はだいぶ偏った考えを持っていたことに気付かされました。最後に先生が仰った「ステレオタイプは誰にでもある。思いこみに気づく。あたりまえを疑う。」そして「長期的に関心を向けていく」、これから頭の隅に置いていきたいと思えます。ありがとうございました。
- 私達は生まれた時から、すでに知らず知らずのうちにジェンダーバイアスにさらされていて、それを少しずつ意識して変えていく事がとても大切だと思いました。個人だけでなく社会全体で変えていかなくてはいけないと思えます。
- 今回の講座を通して、改めて自分に固定概念があるなど実感しました。ワークや意見のシェアに取り組み、色々な意見を聞いて良かったです。固定概念は、小さい頃からの積み重ねで築き上げられるということなので、子育てにおいても性差比をなるべく出さないよう、気をつけていたならなと思いました。この全8回を通して、少しでもステレオタイプに対する認識がやわらかくなれるといいなと思えます。
- 自分自身では意識していないようでステレオタイプを持っていたり、アンコンシャス・バイアスのなかで自分や他者に接してしまっていると思った。娘にも「女の子らしくあってほしい」という思いから女の子らしい洋服、おもちゃを与えてしまっていたが、子供自身の可能性を狭めないためにも、たくさん種類のおもちゃに接する機会や、性別にとらわれない洋服も与えたいと思いました。
- 2児の姉妹を育てているのですが、“女の子だから”と言うことがないように気をつけているものの、家にあるおもちゃや服装（色など）が、いわゆる女の子の物によっていることに気付かされました。幼少期からの環境に影響を受けるとのことで、今後より気にかけていきたいと思いました。
- 昭和世代で男女の偏見の中で育ったので、目からウロコで大変勉強になりました。
- ジェンダーバイアスについて、無意識に持っただけだったり、あとで気づいたりすることがよくあります。例えばカッコ良いTシャツを着ていた子どもの母親に「男の子ですか？」と聞いたところ、実際は女の子でした。自分の中で男の子、女の子は各々それらしい洋服を着るべきというバイアスがあったことに気づきました。バイアスは完全になくさなくても、自覚することによって少しでも減らしていけるのではないかと強く感じました。
- 子どもの頃からジェンダーバイアスにふれて育った世代でもありますので、無意識の中でかなりのステレオタイプがあると思いますが、社会や自分の思い込みに気づき、1つでも多くステレオタイプを手放していきたいと思いました。とは言え、男尊女卑で育った夫は、自分がステレオタイプと気づいていない人なので、日々の生活の中で私自身が変わっていく事の重要性を感じました。
- 本日の講義の中で、特に印象に残ったことは、私自身が「ステレオタイプの塊だらけ」と感じたことです。まず、このパルカレッジに男性の方が参加していることに「えっ!?男性もOKなんだ」と朝一番に感じました。きっと「ワタシ＝女性」の固定意識、パンフレットのピンク＝女性の固定観念があったからだと思います。日常生活を送る中でも、思い起こせばいろいろなことが思い当たりました。
- 濃い内容の講義を無料で聴けて、大変ありがたいイベントだと思いました。これから毎週参加するのが楽しみです。別室受講でしたが、赤ちゃん連れへの配慮大変感謝しています。

## 身近にあるジェンダー・バイアス～それって本当にアタリマエ？～

講師：公益財団法人日本女性学習財団学習事業課長 池田和嘉子



【プロフィール】大学院の専攻は成人教育・生涯学習論。卒業後は国立女性教育会館の客員研究員等を経て現職。女性の生涯にわたる学びとキャリア形成に関する講座の企画運営や男女共同参画の情報誌作成に携わっている。

### ■これって「アタリマエ？」

#### ～身近なモヤモヤから考えよう～

ジェンダーとは簡単にいうと、「社会や文化の中で構築された性」と言われています。いわゆるセックスという生物学的性とは違い、「男の子だったら大変だね」とか、「女の子だから優しい泣き声だね」とか、そういうのはジェンダーに入っていると思います。性別を入れ替えてみて違和感があるものにはジェンダーが潜んでいる可能性を考えることが大事です。この社会には性別役割分業があり、特に高度成長期で男は仕事、女は家事・育児という社会づくりをされて、意識にも浸透していると思います。

そうはいつても、社会が変わる中でそれはもう古くなってきたという感覚を持っている方、すごく多くなっています。この40年ぐらいで、男は仕事、女は家事・育児というのが反対という方は1割2割だったのが、もう5割6割になってきているのが社会の現状です。ただ、本当に変化しているのかというところで、今注目されているのが無意識の偏見、アンコンシャス・バイアスです。

無意識の偏見、アンコンシャス・バイアスというのは、誰もが潜在的に持っている無意識のバイアス、固定観念とか偏見と言われます。育つ環境や所属する集団の中で、自分自身の中に知らず知らずのうちに刷り込まれているものと言われています。

アンコンシャス・バイアス自体が全くないということは誰もなくて、脳が判断する材料になっていくので、あること自体はいいのですが、じゃあ女だからこうだと判断していくと、自分自身や相手の行動を狭めてしまう危険性があるということに注目したいと思います。例えば血液型で何型

だから性格はこう、と考えたりトラックの運転手は男性だと思ったり。シニアだったらデジタル機器には弱い、若い人だから柔軟な思考だよねとか思ってしまうかもしれません。その中に性別、ジェンダーのことが含まれます。

こういう無意識の偏見は、今の社会を進めていくために注目したほうがいい、ということで内閣府が調査を始めました。令和3、4年度に調査をしています。全国の20代から60代の方を対象に性別に基づく思い込みについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計を出してその上位10項目を並べると1位は、男性は仕事をして家計を支えるべきだ。これは、5割ほどは思っているという結果が出ています。

特に男女差が大きく開いたのは、男性は何々すべきだという3項目です。例えば、男性の4位に挙がっています「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」は、男性34.0%、女性21.5%。「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」は男性の7位、「男性は人前で泣くべきではない」は男性の8位に挙がってきています。

特徴的なのは、世代間の差があるということですね。男女の差はもちろんですけども、「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」とか「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」では男性60代と男性20代の差がすごく大きくなっている。自分自身が生きてきた世代によって、こういう刷り込みが生まれていることがわかります。

注意したいのは、自分自身はそんなに思っていないけれども、組織や集団になると差別や排除につながっていくことです。家事・育児は女性がすべきだと思っていると、女性は登用しないでおこうと思ってしまうたり、逆に男性は、「地域活動より

仕事に行ってね」と言ってしまうたりする環境が作られてしまいます。

## ■イラストで発見！社会に潜むジェンダー・バイアス

日本女性学習財団作成の暮らしや社会に潜んでいるジェンダーの問題を表現した6つのイラスト、「なるほどジェンダー」を見て、グループごとに気になるイラストを2つ選び、思ったことを付箋に書いて発表・共有しました。

## ■「公」の場に女性がいない

146 分の 116。これはジェンダーギャップ指数と言われるものです。経済参画や政治参画、健康、教育における一定の指標を全部数字に直して、男女格差がどのくらいかを表しているもので、毎年世界経済フォーラムが出しています。最新の数字が116位です。世界で見ると、まだどこも女性優位の国はない。まだ男女格差がある世界の状況だとわかります。

社会構造だけ注目すると、一番は公的な場に女性がいないという問題が大きいです。公的な立場とは権力のところ。フィンランドは30代の女性首相がいて、15人中10人が女性でした。日本の内閣は、女性が2人です。もちろん男性、女性、どちらがなってもいいと思うんですけども、国民全体では男女均等にいるのに国会議員を見るともう男性が圧倒的に多く女性が極めて少ないのが現状としてあります。国民の声を反映するところに女性がいない。職場も同じような状況ですね。他の国と同じように、就業者の女性の割合は5割ぐらい。でも、管理的職業従事者、つまり社会的に発言ができる方や組織を変える立場にいる方の女性の割合は、大体1割になります。

## ■そして「私」の場に男性がいない

非正規雇用の割合は女性が圧倒的です。この問題を国会で話し合う人が出なかったり、社会や組織を変えようというところに女性がいなかったり、そういう立場をわかってくださる方がいないと、

結局この状況は変わらないということ、構造的に考える必要があるなと思います。

でも「女性活躍」って言っているし、女性が管理職になればいい、機会はあるのにならないのは女性の甘え、という声が聞かれるんですね。でも、公的な場と表裏一体である私的な場、ケアとか家庭とか無償労働に結びつく場に男性たちが見えない、女性たちが負担しているという状況があります。例えば6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間のグラフを見てみます。世界的には女性が担っている時間は多いんですけども、圧倒的に男性のほうが少ないのが日本になってしまっています。次に、有償労働、無償労働についてのグラフを見てみます。有償労働、賃金をもらえる労働時間と、無償労働、家事・育児、ボランティア活動。これらの労働時間を足しているグラフです。日本を見ると、ほぼ男性と女性は同じ時間働いている。けれども、有償労働と無償労働の男女比を見てみると、1.7倍ぐらいの男性が賃金労働に就いている。無償労働は女性が5.5倍多い。男性だけでなく女性もすごく働いているということです。むしろ、女性は有償労働もするようになってきた。「男は仕事、女は家事」ではなく、「男は仕事、女は仕事も家事も」という新性別役割分業が増えてしまっています。

## ■健康への影響は

これを続けているとどうなるか。水無田気流さんという社会学の先生は、日本の女性は時間貧困、男性は関係貧困だと言っています。女性は、家庭の中で家族のケアに当たる時間を取られてしまっている。一方で男性は、地域社会から孤立してしまっている方が結構多いように見受けられます。一番問題視されているのが自殺者の推移です。男性のほうが2倍ぐらいになっている自殺者の状況があります。これは社会の中で活躍しなければいけない、活躍することが男性の役割だとすると、活躍できなくなってしまった瞬間自分のアイデンティティを失う、過労死、過労で自殺に追い込まれてしまうことが、現状としてあるということで

す。

有害な男らしさという言葉があります。Toxic masculinity と英語で言うそうですが、男性はこうあるべきとか、そういうことがまだまだ日本にはあるのかなと思います。例えば、「男なら泣くな」とか言って育ててしまう。そういうやり方だと外に自分の感情を出せない、あるいは相談できなくなってしまう。そうすると、自分を追い込んでしまうことが現状にある、この辺はジェンダーの中での問題性として、今、注目されています。

### ■子どもたちへの影響は？

高校生に聞いてみると、ジェンダーの固定観念って、もう古くなってきたなと若い子たちは思っています。でも、世代が上の人に、どうしても押しつけられている。それについて、自分の可能性を閉じ込めている、狭めていると8割ぐらいの子が感じている、変えていきたいなと思っている。また、女子の自己肯定感が男子よりも低くなっている現状もあるんです。男の子だったら励ましの言葉をかけるところが、「女の子はそこまでしなくても…」と言ってしまうことで自己肯定感がだんだん失われていく現状が、小学生から中学生、あるいは高校生になる段階で見られることが日本の問題だと思います。

性別が異なっているだけで生き方の選択肢が狭められている現状が存在します。男性が自分自身も含めたケアに参画できなかつたり、女性がもっと社会で活躍することで社会は変わるのに変われなかつたり、そういうことが保証されていない社会があります。ジェンダー問題は「女性問題」って言う方が多いんですけども、そうではない。男性問題でもあるし、男性、女性、そういう性別に縛られない全ての人にとっての問題であって、性別による生きづらさが残る社会になっていると思います。こういう意識を次世代に引き継いでいけるのか、ということが課題になってくると思います。

### ■「自分らしく」生きられる社会を創ろう

当たり前とか普通の景色も変わってきていると思いつつ、見直していくことって次世代へのプレゼントかなと思いますし、私たち世代の責任のかなと思います。気付くことは少しずつ変えていくことが、次世代がもっとよくなる、それが当たり前なんだよねと普通に言える、そういう当たり前を作っていくことは私たちの責務かなと思います。小さな社会から変えていくことが大事かなと思います。

最後に、やっぱりこの場ってすごく大事ななと思います。マナ（学）友をぜひ自分の身の回りにプラスしていただきたい。仲間というのはすごく貴重です。大人として付き合える仲間がやっぱり大事だと思いますので、マナ友をぜひ作っていただきたいと思います。こういうセンターをたくさん活用して、このマナ友と一緒に次の時代を作っていただきたいと思いますし、私も一緒に頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。

### ■受講生の感想（抜粋）

- ・グループワークを通して、今、自分の家庭環境の縮図のようなイラストの問題点、改善点の意見交換ができて良かったです。それを変えるために、自分ができることを最後に考える時間があつたのも良かったです。帰ってから実践してみたいと思います。
- ・自分が女性だということもあり、ついジェンダー問題で不利益を受けるのは女性だという意識があつたが、男性側も同じように生き辛さを感じたりしているというのが考えてみれば当たり前だけど今日のお話を聞いて改めて意識したことでした。子どもには、同じ辛さを経験してほしいので、少しずつ意識と行動を改めていきたいです。
- ・時代が移り変わっていく中で、性別役割にバイアスがあつて、そのバイアスが自分自身をしばってしまうんだなと、この講座を通して気付くことができました。

# 見えないものが見えてくる～メディアの見方、とらえ方～

講師：メディア総合研究所所長 谷岡理香

【プロフィール】元テレビ高知アナウンサー。城西国際大学大学院で女性学の学位を取得。武蔵大学大学院博士課程でメディアとジェンダーについて研究ののち、東海大学文化社会学部教授を20年間務めた。一方、(一社)「青空朗読」を設立し、誰もが朗読作品を楽しむことができる耳で聞く図書館作りを進めている。



## ■情報社会と情報戦争

今年はウクライナへの軍事侵攻から1年ですが、戦争すら情報で勝ち負けが決まることがあります。1991年の湾岸戦争では、イラクがクウェートに軍事侵攻をして兵士たちが乳児院に入り、乳児を全部投げ捨てたというニュースが流れました。それまでのアメリカの世論は、兵士を送るのは反対という人たちが多かったのですが、そのニュースでアメリカの世論が変わりました。後にこのニュースはフェイクであったことがわかります。

私たちは情報社会に生きています。だからこそ、自分の価値観は何によって作られているか自問することが重要です。メディアが果たす役割がある一方、メディアによって価値観を染められていないか考えてほしいと思っています。

## ■講座の目的

自分らしく生きていく、そのために能動的にメディアを読み解く。「〇〇さんが言っていたから」じゃなくて私はどんな価値観でこれまで生きてきて、これからどう生きていきたいのか。受け身にならないということです。同じ色に染まっておくと安心感があるかもしれませんが、講座の目的は、メディアを能動的に読み解いた上で、自分の意見、思いを語ることです。

## ■テレビが描いた70年～ドラマ編

今年はテレビが生まれて70年。その70年を振り返り、男女観が大きく変わってきていることを、メディアを通して見ていきましょう。

まずドラマ編。1953年にホームドラマが始まり、人気番組「肝っ玉母さん」には当時の女性観がよく表れています。結婚するまでは女だけ結婚し

たらこどもを産んで当たり前というものです。

バブルに向かう頃は、不倫花盛り。「金曜日の妻たち」が代表作です。1991年にバブルが崩壊。これまでは結婚が当たり前。ところがこの辺りから、結婚って本当にみんなするものなの？という問いが立ちます。当時の人たちも悩んでいたと思います。それをテレビが掬いあげたと言えるかもしれません。

21世紀になると「アットホームダッド」の専業主夫。一般的ではないけれども、いなかったわけではない夫婦の形を提示しました。

「逃げるは恥だが役に立つ」では家政婦として、そのお家で家事をすれば給料が発生するのに、結婚の形を取った途端払われない。これはやりがい搾取じゃないかと。見えなかった仕事を見える化して、これをもし市場に乗せたらこんな価値のあることをやっている、ということ認識してくださいという内容でもありました。

2000年以降増えたのが、これまでと異なる男女です。「3年B組金八先生」「ラストフレンズ」に登場する性同一性障害に対する社会の意識の変化。NHKの朝ドラに初めてゲイが登場した「半分青い」。ここに登場するボクテというゲイの若者はとてもやさしい。この子はこの子のままでいい、性別や性自認、性嗜好で人の価値を決めてはいけなないと、視聴者、特に高齢者にとって良いメッセージになったと思います。

数年前までWHOも性同一性障害を病気の範疇に入れていました。勿論、今は病気という分類から外し、医者が間違っていた時代もあります。今は本人が思っていることが何より大事というところまで来ています。



## ■テレビが描いた70年～こども番組・アニメ編

続いて、こども番組。主役はほぼ男子です。「ブーフーウー」って子豚なんですけど全員男子。制作現場が男性中心だからではないでしょうか。

「にこにこ、ぷん」。じゃじゃまるはガキ大将、ぱろりは泣き虫だけど勉強はできる。女子のぴっころだけしっかり者。私はNHKの制作の人に「もう一人ガキ大将の女の子はどうですか？」って言って、暫くして別の番組で男子2、女子2になったんですが人気なくて、3人体制が戻ってきました。まだ視聴者が女の子の多様性を求めているという時代的要素があったのかもしれませんが。この後は変化が見えます。男子1、女子1、ロボット等です。メディアが時代に影響を与えることもあれば、時代や社会の変化がメディアの制作者に影響を与えることもあるわけです。

1990年以降多様性が広がって、1990年代はターニングポイントだと思っています。男女平等に関する法律が整備されます。この頃の「ちびまる子ちゃん」は大ヒット。今年の「ひろがるスカイ！プリキュア」ではメインキャラクターに初の男子が誕生しました。男子がとても綺麗です。性別じゃなくて自分らしさを大事にというメッセージだと思います。

男の子のキャラって、強くて、女の子を守ることが多くなかったですか？シンデレラや白雪姫は作者が男性です。彼らが描く女性の幸せ物語で絶対的な条件が、美人であること。女性は美人で、ずっと従順でいれば、白馬に乗った王子様が来てくれるという物語が多かった。でも本当？お城に行った後どうしているの？という話になった後の「アナと雪の女王」が決定打でした。どんな環境に生まれようが、どんな属性を持っていようが、あなたはあなたのままでいい。ハリウッドは人権活動で映画を作っているわけではありません。色々なマーケティングをして、どうすると多くの人が気に入るのかを考えて物語を作っていきます。そこから考えると、今の人たちは「私らしい生き方」を求めていると。その後のディズニー、ハリウッドはこの路線重視になっています。

## ■テレビが描いた70年～CM編

次はCMを見ていきます。1970年代は、「わんぱくでもいい。たくましく育てほしい」。男の子はやんちゃなぐらいがちょうどいいと言われていた時代がありました。あとは「男は黙ってサッポロビール」。きっちり性別役割分業があって、男が働く、女は家庭を守る。

バブルに向かって時代の空気が軽くなると「5時から男」のグロンサン、「24時間戦えますか」。一方で「亭主元気で留守がいい」というCMも。バブルが崩壊すると、「日本のお母さんはきっといつか倒れると思う」というCMも。スーツ姿のお母さんは右手にこどもを抱いて、左手でスーパーの袋を抱えて家に向かって歩いている。仕事も家事も子育ても負わされているイメージでしょう。

1999年の「育児をしない男を父とは呼ばない」は当時の厚生省。これは賛否両論でした。「お父さんが単身赴任で働いてくれているのに、こう言われると腹が立つ」という学生もいました。確かにお父さんは立派だったと思うけれど、本当にそれは一人の人間として幸せな生き方だろうか？初めてこどもが歩く時を見ることもなく、気が付いたら大きくなって、自分の居場所が家庭にないという父親も。たまに早く帰ると妻が怒るみたいな。笑話話だけでも、本当は笑えないですね。父とは何なのでしょう。2014年にリゲインは「24時間戦うのはしんどい。3～4時間闘えますか？」。大きな変化だと思いませんか？

## ■日本人の意識調査

NHKは5年に一度、日本人の意識調査を行っています。一番変わってきたのが男女観です。1973年、結婚したら女性は家庭に専念したほうがよい、と思う人が35%でしたが2018年には8%に下がっています。結婚してもこどもができるまでは仕事をしたほうがよい、については1973年、42%でしたが、2018年には下がっています。ではどことが上がっているか？結婚してこどもが生まれても、仕事を持ち続けたほうがよいと思う人です。1973年は20%しかいなかったのが今は60%です。

## ■日本は男女平等後進国

世界経済フォーラムの発表で、日本は146か国中で男女平等指数は116位ととても低い位置です。なぜこんなに低いのか。世界一父親が家事をしないというデータがあります。でも少し弁護すると、会社を抜けにくい結果の長時間労働。ただ、育休を取っているパパも意外と家事をしていないというデータがインタビュー調査で出ている。どうしても「お手伝い」になってしまう。それは違うと妻が悶々としている家庭もあるようです。

## ■メディアの世界で、女性は

政府はあらゆる分野で決定権のある女性を3割に増やしましょうと目標を立てていますが、NHK、民放の男女比は管理職どころか一般職員の割合ですら未だに3割に届かないんです。世界の報道組織の中でも日本の女性の参画は最下位クラスです。日本の大手メディアの人事部に正面から聞いても、「制度は整っています」って言うんです。確かに日本って北欧よりも制度は整っているんです。でも、一般企業にもあると思いますが、制度はあっても使わせない空気が特にメディア界に強い。どうしてか？24時間働くから。それを誇りに思っているから。その他にも、民放各局における報道部門や制作部門の局長、つまり決定権のあるところに、女性は誕生していない。

でも明るい光もあるんです。NHKがジェンダー問題を多く取り上げるのは、編成局長に女性が就いたことと無縁ではありません。彼女はEテレでもジェンダー問題をやっていて、後に女性初の編成局長になり、理事になっておられました。本当に力があって、男女平等というより人権を大事にします。そのような人が決定権のあるところに行くことで番組編成が変わるかもしれない。ずっとマイノリティーだった女性のほうが、そういう物差しや視点を持っていると思っています。

## ■グループワーク

講座を通じて共感したこと、驚いたこと、疑問に思ったこと、自分とメディアの関わりで気付い

たことを話し合い、共有しました。

## ■まとめと補足

テレビ70年を振り返ると、私たちの男女観は変わってきている。一方で変わっていないものもあるし、変えてはいけないものもある。

日本にいる難民や技能実習生の多くが酷い環境下にいます。本当に恥ずかしいレベルにある。大分メディアが取り扱うようになってはいるけれども、十分ではない。メディアは社会的に弱い立場にいる人々への人権問題への照射がこれまで十分とは言えません。でも取材を続けている人はいるのでそういう番組を見たら、「良かったですよ」と電話して応援してくださいとうれしいです。

「メディアはメッセージ」と言いますが、メッセージには作り手の価値観が反映されています。誰がそれを価値ある情報として伝えているのか、批判的に考えることが大切。それが自分らしく生きることに繋がると同時に、他人の他人らしさを認める力をつけることになります。多様性を認め合う社会につながるのではないのでしょうか。

## ■受講生の感想（抜粋）

- ・メディアによって自分の考え方など操作されている所はあると思います。子供の頃に見たドラマの影響で将来何になりたい等が例です。良い影響ならいいのですが悪い影響もありそうと思いました。自分の子供は2才半ですが、私も主人も使わない言葉を使って驚いた時がありました。うまくメディアを視聴者側も利用すべきと思いました。
- ・何気なく見ていたCMやテレビに、其々の時代に応じたメッセージがあって、とても興味深く、今後自分のメディアとの関わり方を、今回の学んだポイントを少し頭に入れてながら見てみると、面白くなると思いました。話し合いや発表を通して様々な意見をきけて参考になりましたし、自分の意見を言語化することによって、改めて自分の考えを客観視できて、とても良い機会となりました。

# ワタシたちをとりまく社会の変化～ジェンダーへの視点を中心に～

講師：明治学院大学社会学部教授 加藤秀一



【プロフィール】一橋大学社会学部を卒業後、東京大学大学院に進み、現職。  
専門は社会学、生命倫理学。性役割の現状分析、生殖をめぐる倫理問題を研究。

## ■“今”とは動き続ける歴史の1コマである

社会の変化を語る時に常々思っているのは、今も歴史の1コマだということです。私たちにとって、生まれて物心つく前の物事は全部過去のこと、生まれ育ってきた物事はそれが当然のこと、そこから外れると違和感を覚える。ですが人間は勉強して学ぶことができる。これからも我々には選択肢があって、未来は無数の可能性があるわけです。歴史の1コマの中で、たまたま今を生きている感覚を大事にしたいと思っています。

## ■ジェンダー、その定義とは

ジェンダーは外来語でそのまま定着していますし、元々日本語にない言葉でいろんな意味で使われています。専門家の把握の仕方も違います。

前提として私たちは人間を女と男に分類し、さらに異なる役割を与えたりイメージで捉えたりしています。その割当て方は社会毎に決まっています。男性は能動的で女性は外から働きかけないと動けない存在というイメージだった時代もあります。社会毎のルールだから歴史的に変わっていくわけです。自分では自然だと思っている「男性はこう、女性はこう」というものをジェンダーと呼びます。

## ■社会の変化～少年犯罪編～

過去5年間で少年による重大犯罪は増えたと思う人が8割近くでした。ところが実際には増えも凶悪化もしていない。もちろん眉をひそめるような凶悪犯罪は時々起こりますが、戦後だけでなく戦中にも戦前にもありました。評論家やコメンテーターが、事件が起きるとすぐ社会がどうこうって大きな話にするんですが、大抵の場合飛躍し過ぎであると。社会全体の傾向は特定の事件だけで表せるようなものではないんです。

少年による刑法犯の件数と人口当たりの犯罪率を見ると、平成15年から男女共に減り、2015年調査では過去15年間、凶悪犯罪は減っていました。にもかかわらず8割の人は少年の凶悪犯罪が増えていると思っていた。新型コロナも今回の場合、初期の段階は外国人を入れないようにしました。日本だけじゃないですが、過剰なまでに行われたと言える。そこにマスメディアやSNSの影響があることを意識しないとイケないと思います。

## ■社会の変化～核家族編～

ジェンダーの視点から結婚や家族は欠かせない大事なテーマになりますが、少年の凶悪犯罪が起きた、個人主義が行き過ぎて公共道徳や家族が崩壊したと言う政治家や評論家があります。ですが、その主張は意味が曖昧であるし事実として根拠薄弱であり、前提の事実認識がねじ曲げられてはならない。家族と結婚もまた歴史的に変化していて、それを学問の水準で見てもおかしい、と思います。

核家族率の1920年から2000年のデータは、あまり変わってないんです。55%から65%。なぜか。平均寿命が短かった時は3世代同居になる期間は短くなるので昔も核家族が多かった。もう1つは、都市化が進んで田舎の地で実家を継いで暮らす人以外は都市に流入し、結婚して子どもを作った人は核家族になる。残った人たちもまた核家族になるので、結局昔から核家族は多いわけです。昔は大家族で核家族化が進んで家族がコンパクトになったとは言い切れないことは歴史学の研究でわかる。イメージでは捉えられないということです。

## ■社会の変化～女性のライフコース編～

例として明治38年生まれ、昭和2年生まれ、昭和35年生まれの女性のライフコースを考えます。

昭和 35 年生まれの女性は学校卒業が 19.2 歳で、高校から短大まで行く人が多く、学校へ行く期間が延びています。結婚年齢も遅くなり、子どもを産む数も違います。子どもは 2、3 人で、上の学校に行かせたいという変化もあります。明治生まれの人は、子どもが一人前になった後の余生はあっても数年、下手すると全くなかったわけです。それが伸びてきて 30 年ぐらいになっている。

またここ 10、20 年の傾向として、子どもの自立が遅くなりつつあります。親元を離れて自分の経済力で生活するのが当然とされた年齢のたちが、親元に残り親からの経済的援助を受けながら暮らしている。するとこの世代は末子が働いて家にお金を送ることができず、就職した後も暫くは子どもを経済的に援助しないとイケない。結婚しない人も増えてきていて、特定のライフコースのモデルを作るのはもう無理かなと感じております。

## ■社会の変化～離婚編～

次に結婚や家族に関わる別の話題、離婚についてです。家族の崩壊を言う人が盛んに言っていたのは、離婚率が高まったということです。端的に人口 1,000 人のうち何件の離婚があったか、というのが一般に使われている離婚率で確かに増えていましたが、21 世紀になると減っているんです。この時期に離婚が減ったのは、経済的停滞の時期に入っていたため迂闊に離婚すると生活が立ち行かないから我慢した等が要因と言われています。もっと長いスパンで見ると、事実として明治期の離婚率は現在よりもはるかに高く、欧米各国からは日本は離婚大国と非難されていました。キリスト教では結婚は神が人と人を結びつけるもので、それを人が別れさせることは本来許されない。欧米諸国は離婚するのが簡単ではなく、日本は欧米よりは手続きが容易です。離婚率が低下したのは、ヨーロッパの批判を踏まえて明治 31 年に民法が改正されたからです。だからもし日本の伝統をいうのなら、高い離婚率はむしろ日本の伝統で尊重すべきだと主張すべきなんですが、そう言う人たちはいない。日本の伝統と言われるものがいかに

単なる思い込みかということの一例です。

## ■社会の土台の変化～人口転換と少子高齢化～

結婚、家族の変化の土台にあつて無視できない人口という現象がどう変化してきたのかを見ていきたいと思います。

キーワードは人口転換です。これはかつて 19 世紀の終わりまでずっと続いていた。国や地域によりますが、パターンは似たようなものです。まず、子どもがたくさん産まれて、幼いうちにたくさん死んでいます。それから衛生状態や栄養状態等が変わって、多産少死の時代になります。すると人口全体は当然増えてきます。そして近代化が進んで社会が豊かになり、第 2 次大戦後の日本は栄養状態が改善され、その効果は平均寿命の延びなど色々な所に表れます。そして少産少子の時代に入ってから何十年も経った、この転換がいわゆる人口転換です。その後また 1970、80 年代から急激に進んできた現在の少子化につながる流れ、これを「第 2 の人口転換」と言います。ヨーロッパでは 17 世紀から人口転換が始まっていて子どもが減る兆候があり 300 年程かけて進んできたことが、日本の少子化は数十年で進んだわけです。昨年の合計特殊出生率は 1.26 で過去最低に並びました。

そもそも少子化って本当に悪いことなのでしょうか。急激な人口変動が問題を引き起こすのは間違いないと思いますが、急激な変化がイケない、ということと人口の大小どっちがいいのか、ということとは別の話です。未婚率が高まっていることもありますが、1 つ確実なのは 1970 年代が日本の歴史上、結婚している人の割合が一番多かったということです。そこを基準に、あたかも歴史上の当然のこととして維持するのは無理な話です。

少子化の解決策を大きく分けると 2 パターン。1 つは女性が子どもを産まないと生きていけない政策をすること。女性が働きにくくし、結婚して男性に養われないと生活できないようにする。子どもをたくさん産んだ人に手厚い社会保障をする。結婚しない、子どものいない人に税金や罰則を科す。イタリアは独身税を課して失敗していますが、

これをやればやむなく子どもを産む人は増えて回復するかもしれません。もう1つは、誰もが性別に関わりなく家庭生活を望めば営みながら働いていける、ワーク・ライフ・バランスをできるような政策を整えていく。もう既にある程度やっていることですが、充実させていく。効果は前者が強いかもしれませんが、これをやったら日本はもはや民主主義国家ではないということになるでしょう。人権を大事にする国家、先進国と呼べる国家であろうとすれば後者しかないと言えます。

### ■若者の性行動の変容は何を示唆するか

最後に、社会とジェンダーの今とこれからということで、セクシャリティに関わるお話。若者の性行動です。日本性教育協会が、1974年以降6年置きに青少年の性行動の全国調査を行っています。

中、高、大学生に聞いた性交経験率。調査開始時の1974年から2005年時点までは上昇していました。しかし2011年調査で大きく下がり、2017年調査ではその傾向が強まりました。2回続けて出ている以上、実際に若者の性行動の経験率が下がったんだろうと。この時期にいわゆる草食化という言葉が流行りました。当たっている面もあるけど単純過ぎる、というのが見解です。マスメディアは男子が大人しくなり性に淡泊な人が増えたという論調でしたが、草食化がいえるとしたらむしろ女子です。女子の、経験率も性的なことに関心があると答えた人も、性交経験率以上に減っています。現在の20代までは、性はどちらかというところ積極的に関わりたいものではないものになりつつあるという可能性があります。

ジェンダーの観点で見ると1993年以降、男の人は外で働いてお金を稼ぎ女の人は家庭の中にいるべきだと思いますか？に「はい」と答える率はずっと低下しているにも関わらず、男性は女性をリードすべきだと思うか？に対する「はい」という答えは殆ど変わっていません。これをどう解釈するのかという問題もあります。性だけでなくその延長で結婚も若い人たちにとっては自分とは関係のないことになっているかもしれません。

### ■まとめ

- ・私たちの生活の全ては歴史的に変化し続ける大きな社会構造と結びついています。
- ・ジェンダーという社会的なルールと切り離せるものはない。そしてそれは変化し続ける。それが歴史であるということです。
- ・私たちはそれをより良いものにしようと思って作り替えてきたし、これからもそうしていかせよう。いいかげんな過去のイメージを伝統と言って、変えてはいけないと言っている場合ではないのです。

### ■グループディスカッション

- ・性や家族生活、恋愛、結婚について、世代、育った環境の違いも含め、考え方のギャップに困った、あるいは助かった経験について。
  - ・若者達がこれから性についてあまりどん欲でなくなり、結婚が少なくなっていくという1つの未来予測を言いましたが、これからの恋愛、結婚、家族はどうなると思うか。
- 以上2点についてディスカッション、発表を行い共有しました。

### ■受講生の感想（抜粋）

- ・少子高齢化は進みとても重大な問題であると思いますが、先生がおっしゃっていたように世界規模では人口の急激な増加している地域もあるため世界的には一部分である事、また先生が何度かおっしゃっていた長い歴史からみればごく一部分である事など、一部分だけにとらわれてしまう現代の情報（マスコミやSNS他）にも注意しつつ、よりそれぞれらしく選択して人生を重ねていけるといいと思いました。
- ・思い込みや、都合のいいイメージから“あったもの”にされている事を「日本の伝統」としたり、現状を捉えたりしている点が特に印象に残りました。離婚の歴史や核家族の数値等、知らない事が多々ありとても勉強になりましたし、これから自分でも考えていきたいと思いました。

## 家族みんなで楽しく暮らす！～ご機嫌に過ごすための家事半分術～

講師：家事研究家 佐光紀子



【プロフィール】上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科修了。日本の家事の特質と問題点について、アメリカなど諸外国との違いを含め研究。家庭内で気持ち良く進める家事シェアを様々な媒体で提案。

### ■それってホントに「いい主婦」ですか？

どっちの家事をするのがいい主婦ですか？スーパーのおかずを買うか、手作りの夕飯。アイロンがけは全部自分でやるか、ドライクリーニングやコインランドリー利用か。家族にお弁当を作るか、ハンバーガーでも買って食べてねとお金を渡すか。

おそらく皆さんの頭の中で、いい家事ってほぼみんな同じ答えだと思うんです。それがちょっと怖い所で、日本にいるといい家事って決まっている。家庭において家事は基本的に妻の責任。朝ご飯を食べさせる。夕食は手作り。「幼稚園の上履きが汚いと私がちゃんとしてないみたいで嫌だ」と言うママは結構いるんです。無言のプレッシャーや、社会の空気だと思うんです。

### ■きちんとした家事の根底にあるものとは？

それがどこから来ているか？「銃後の妻」という言葉があります。戦争中、夫が出征して戦場に行っている間、義理の父母を支えて明るく健気に生きる妻が健気で正しい妻のあり方とすごく喧伝された時代があるんです。

ところが戦争に負けた。その結果、夫は企業戦士になり、妻は専業主婦。だからあまり状況が変わらない。日本の社会は男性だけが仕事の効率上がる考え方を長らく持っていて、女性はその高品質な労働力を提供するためのバックグラウンドを作る役割になっています。

その頃海外ではウーマンリブが流行っていて男女同権とかやっている時に、日本では専業主婦が勝ち組で子どもの面倒をしっかり見ましようというのが戦争の時代から続いていて、今は女性も働く人が増えている状況にも関わらず、専業主婦の

家事が正しいという所から解放されないのが大きな問題かと思うんです。

もう1つは、何しろこどもは勲章なんですよ。立派に育てるのも母親の仕事と社会全体がそう見ている。すると、子育ての責任は基本的に母親にある。学校に忘れ物をさせないとか、宿題をきちんとやらせるとか。母親は学校にこどもをやることを通して学校で学ばされていくと、アメリカの社会学者アリソンさんが言っています。

日本の学校は親が巻き込まれて色々やっていくもので、アリソン自身がこどもを日本の幼稚園に入れていたんですが、ある日お迎えに行ったら、「今日、息子さんがお弁当全部食べられなかったんです。息子さんが喜ぶよう食べやすくしてはどうでしょう？」って先生に言われたんです。アリソンは「何で息子の食欲を問題にしないでお弁当に問題があるって言うの？」と思ったと。彼女は、きちんとお弁当を作ってあげないとこどもは食べないことを日本のママたちは刷り込まれていることに気が付いた。幼稚園が母親をしつけていると。食事は手作りで愛情をとか、バランスを考えること。でもよく考えると、健康な生活には食事だけじゃなくて、運動とか睡眠とか、大人だったらたばこ、飲酒、色々ありますよね。だから食事だけにプレッシャー感じてやっても、夫が自覚しないと夫の健康は守れない。家事が愛情だと思わないほうがいいと、そう思ってください。

### ■きちんとした家事≠愛情

きちんとした家事は本当に愛情なのか？を昔の話からしたいと思います。『女中さん読本』によると1950年ぐらいまで住み込みの女中さんが日本

にいたんですが、だんだん他の仕事のほうがお給料が良くなって、住み込みの女中さん見つからなくなって、なくなったようです。

明治時代の女中さん。お金のある家だと上女中さんと下女中さんがいて、上女中さんはお裁縫。下女中さんがやるエントリーレベルの仕事がご飯でした。掃除は女中の腕の見せどころ。家事をするには女中さんがいないと回らないものだった。ところが、戦後それが合体して専業主婦になったら、おかみさんと女中を一人でやることになった。昔は家事をやる人と管理する人二人三脚でやってきた家事を、今は育児をしながら、あるいは仕事をしながら回していくのは、根本的に無理なんだということを頭の中に入れておいていただければ。

そして、お食事は毎日違う献立を、というのが出てきたのは、戦後です。江上トミさんという有名な料理研究家の方がいたんですが、ポリシーが『ご家庭の幸せは愛情を込めた料理から』。毎日違うお料理を出すのが家庭の幸せにつながるという一大キャンペーンができて、同時期にスーパーマーケットができるんです。色々な物が買えるから今日はお肉、今日はお魚って毎日違う献立にする話は、戦後のこの頃からできている。

そう考えると、昔からきちんと家事をしてきたと思うかもしれないけれども、ここ100年ぐらいでできたものだったりします。

## ■「家事の呪い」＝～私がやらなきゃ！～

私がやらなきゃ、と思って1人でやっているのだんだん家族やパートナーに家事を渡すのが難しくなっていく、これを家事の呪いと言っています。家事の呪いの諸症状を見ると、全部自分で抱えるので私のルールが家のルールになりがち。自分が考えている牛乳と違う物を彼が買ってくるとイラッとする。私がやったほうが早くてきちんとできる。自分のスタンダードがあって、それに乗れないと私がやる。すると相手も、こっちがやっても認めてくれないからやって、となりがち。こういうマインドだと呪いにかかっている感じがします。

家事の呪いって、家庭という零細企業の経営者

は私だ、という感覚に似ていると思うんです。零細企業の社長さんは、私が倒れたら全てが立ち行かなくなる家の全責任を感じている。だから彼が「今日保育園のお迎えに行けないんだけど、悪いけど行ってくれる？」と言われると怒りながらも行くんですね。

## ■スキルはやらなきゃ身につかない。家事も同じ。

家事のスキルは、やれば伸びるもの。やらないと伸びない。家事動向調査では平日の妻の家事時間は夫の7倍。52週続けると、妻の家事の経験値が1,600時間。夫は275時間。これ、1日を新人の8時間のジョブ・トレーニングに仮定すると、1年間で妻は204日の研修を終え、夫は1か月の研修を終えた程度。1年でそれだけ差がついちゃうわけです。結婚してずっと妻が家事をやり続けるとこうなる。それがどういうことか。定年になったら家事を手伝おうと思っている夫は多く、一緒にやってもらいたいと思っている妻も多い。でも、これだけ差のついた人と一緒に家事するのは厳しくないかと思うわけです。

「家事は愛情」なんて言っていないで、家事はできたほうがいいです。家事は毎日やっているからできるようになる。その機会を夫や子どもから奪うのはまずいと思うんです。対等になってもらうには、相手を後輩だと思って育てる。

家事のやり方やお母様がお手本だと思うんです。一般論として日本の場合、お母さんの指導が娘へのほうが厳しい。だから、掃除は汚れに気が付いているほうがやろうとスタートした新婚さんは割とモメる。女性が先に気が付いちゃうから。お母さんにそう言われてきたからなんですよ。

## ■着地点を共有しよう

作業をする時に、着地点を共有することは結構大事だと思っていて、例えば「お茶碗洗って」って言ったときに、お茶碗を洗うのは、拭くまでやるか、しまうまでなのか。フワッとしているからどこまでなのかわからなかったりするんですけど、そこを共有しておくのは大事なかと。

仕事の話でいうと、例えば「プレゼンの資料を作って」って後輩に頼む。言った側はパワーポイントで10枚って思っているけど、言ったのは「プレゼンの資料を作って」だけ。そしたら、後輩がワードで1枚持ってきました。「これじゃ駄目」とは言えない。「プレゼンの資料を作って」としか言っていないから。「パワポで10枚ぐらいあるといいな」って言うておけば、やるよね。でも、後輩はわからないからワードで一冊懸命作る。

だから、人それぞれで違う所が家族の中でも結構あるので、そこは失敗して一緒に困ってみる。できないことはできないと言ってもいいと思うんです。逆にいうと相手も大人だから、信頼して任せましょう。そして、思っていることと違う結果やプロセスになった時に、怒らずに「何でそうしたの？」って聞いてみて。そうすると「いやこういう理由でね」っていうのが出てくるから。それはこどもでもそうだと思うんです。

### ■家事に暗黙の了解はありません

片付けについても「全部私がやらなきゃ」と抱え込まないで、例えば『いついつまでに片付けなければ捨てます』って紙に書いて箱に入れて、最後捨てる前に「捨てますよ」って1回だけ声をかける。途中で「早く片付けなさい、捨てちゃうわよ」って絶対言わない。それで捨てられて怒ったら「私捨てるって言ったよね」って。それで1回困ってもらう。何回かやっていくうちにちゃんと分けられて、必要な所に戻っていく。逆に、こども部屋とか夫の趣味の部屋は、彼らの場所だから、そこに入って片付けるのは、プライバシーの侵害です。そうやって責任の範囲をはっきりさせていくといいと思います。全責任を私が背負っていると思うと、ずけずけ相手の所に入って行きがちですよ。その辺りは気を付けないと。

そういう意味でいうと、家事に暗黙の了解はありません。私の常識は夫の非常識だし、こどもの非常識だと思って、やり方をちゃんと伝えてください。これは結構大事だと思います。

また、プロセスを伝える時に感情を捨てて怒ら

ないで説明する。怒っていると、相手を謝らせることに神経が行きがちなので。「何でそうしたの」って聞くのは結構いいと思うんです。もう1つ、できないことはできないって言うていいと思います。すると色々なことにつながって、これヘルプシーキングっていうんですけど、相談することで、何か別の案が出てくることは結構あると思います。何かあったら「できない」と言って、家族にヘルプを求めてください。

### ■家族みんながご機嫌に暮らすために

大事なことは、家事はみんながご機嫌に暮らすための技術だということです。愛情の表現ではありません。その家族には皆さんも入っている。皆さんが後ろで頑張って、他のメンバーをご機嫌にするのではなくて、皆さんも含めてご機嫌にならないと意味がない。家族は共同生活者なので、一緒に生活している人が困らないよう、家事を一緒にやると、話をする機会は増えてくると思います。こどもも共同生活者ですので、彼らが大きくなった時に困らないように、一緒にやっていけるようにして、やってあげないとかわいそうという発想を捨てるといいかなと思います。

### ■受講生の感想（抜粋）

- ・自分でやったら早い、きちんとできると思い自分で家事をやってしまう事が多かったが、今後は夫を「後輩」と思い育てていこうと思いました。また今後、子供が自分で色々出来るようになったら責任を持たせ、家族の一員としてきちんと家事ができるよう育てていきたいと思いました。夫・妻・子供とそれぞれ立場は違いますが、みんなが家族の共同経営者としてよりよい家族になっていけば良いと思いました。
- ・家族が改めて共同生活者、経営者なんだと思うと、今後の接し方が変わってきそうです。何かを頼む時の声かけの仕方が少し変わると、相手（対夫・子供）が動いてくれるかもしれないと、ちょっと実践してみようと思います。とても有意義な2時間でした。ありがとうございました。



## 身近にあるDVに気付く～自分も相手も尊重し合える関係を作るために～

講師：一般社団法人エープラス代表理事

自治体DV専門相談員

吉祥眞佐緒



【プロフィール】DV被害を受けた女性とDV家庭に育ったこどもの支援、DV被害者支援を軸に置いたDV加害者プログラムを行う一般社団法人エープラス代表理事。江東区立中学校においてデートDV防止講座を実施。

### ■私たちが感じるモヤモヤ

私たちが日々感じているモヤモヤというのは、もしかしたらDVの芽になるようなものかもしれない。この日々感じるモヤモヤやアンコンシャス・バイアスがどのようにDVと関係しているのかということ、一緒に考えていきたいと思います。

モヤモヤなんですけども、言語化できないから、モヤモヤなんです。それをアンコンシャス・バイアスとして、何とか言語化しよう、視覚化しようとしているのが、国の働きかけなのかなと思っています。例えば、食器洗い。食後ゆっくりしてから寝る前に洗いたい人もいれば、すぐ洗いたい人もいると思うんですけど、それをその洗う人のタイミングに委ねないで、「すぐやれ」と言う家族がいたら、ちょっとモヤモヤするんじゃないかな。それから、「女性は感情的だ」と言う人たちには、アンコンシャス・バイアスがあるんですよね。女性はいつもここにこしていなきゃならない、女性はいつもヒマワリのように輝いていなければならない、女性はいつも月のように生きていなければならないというような女性に対するイメージがすごく強い人がこれをよく言います。ここにこして何も物を言わず、三步下がって控え目にしているはずの女が、自分の意見を言うことが憎たらしくて女性は感情的だと言うわけです。一度気付かだしてしまうと、色々なことに気付いてしまう。でも、それってすごく大事な気づきで、どうしてこうなのかということ、を突き詰めて考えていくことで、新しいアイデアが出てくるんですね。1人の声がだんだん大きな声になっていくと、世の中が変わっていくんです。DV防止法もそうやってでき

てきましたし、今回また改正になって、まだまだ足りないんですけども、だんだん被害者のために使いやすい法律になってきていると思います。

ついこの間、ジェンダーギャップ指数（各国における男女格差を数値化したもの）が発表されました。昨年、日本は153か国中121位でしたが、今年は125位にまで落ちました。日本は世界から比べると本当に女性が生きにくい国なんだということが、数値上明らかになっています。日本で何が問題になっているかということ、政治参画と経済です。政治家、日本の国会議員の男女の割合でいうと、圧倒的に女性議員が少ない。もちろん地方議員も少ない。意思決定をする場所に女性がいなくて、女性の困り具合がなかなか理解されない、聞いてもらえない、なかったことにされているところだと思います。経済もそうですね。経済は男女の賃金格差とか、雇用形態が日本は本当にひどいんですよね。

### ■身近にあるDVってどんなもの？

内閣府は3年に1回、女性に対する暴力について調査をしています。調査によると、結婚している人の3人に1人がDVの被害経験があると答えています。まず、DVはどうして起こるのか。DVの要因は、私が考えるには5つあると思っています。1つ目は、力を持っている人が弱い人を支配すること。これは、会社でいえばパワハラに当たりまですし、学校でいえばいじめに当たりますし、力を持っている人が弱い人をいじめるという社会の構造というのは、世界中にたくさんあると思います。これを恋人同士とか夫婦という2人しかいない関

係の中で行われているのが DV です。夫婦が対等でなくなったら、それは DV の関係なんだということを押さえておいてもらえればと思います。2 つ目は、暴力を容認する意識が、この日本の社会ではとても強い。例えば、男の子が元気で暴れたり、トラブルを起こしたりすると、元気でいいじゃないか、男ってそのぐらいじゃないと…というように考えている人はいないでしょうか。それから、理由があれば暴力を振るってもいいと考える意識です。子育てにはそういうことが多くあるかもしれません。例えば、宿題をやらないから。あとは、男の子だとやられたらやり返せ、やり返さないのは男としてみっともないとかですね。こういう考え方があれば、売られた喧嘩は買っていいんだという意識につながっていきます。3 つ目は、ジェンダー・バイアスです。男（夫）はこうあるべき、女（妻）はこうあるべきというような考え方は、DV につながりやすいと思います。4 つ目は、夫婦とはこうあるべきだという夫婦観です。夫婦の数があれば、夫婦のあり方というのは、その数だけあると思うんですね。こうでなければならぬなんていうことは全くないと思うので、このバイアスを何とかして取り去れたら、多分ハッピーな夫婦が増えると思っています。5 つ目は社会背景の問題です。社会の中で DV について、旦那さんも気の毒だったよねとか、あの奥さんちょっと激しい人だったから…みたいな感じで加害者を擁護したり被害者を責めたりするような社会背景があったとしたら、それも DV の要因になると考えています。この5つがどうしたらなくなっていくのかということを考えると、要するに関係性、価値観の問題なんです。2 人の関係性が対等かどうか。そして、男はこうあるべきだとか、夫婦はこうあるべきだとか、女はこうしなければならぬとか、価値観に基づくものなんだということを知っておいていただければ、もう十分です。DV の問題は、夫婦の問題ではなく、大きな人権問題で、あらゆることに関係する社会の問題であるので、2 人のプライベートな問題だから…ではなくて、社会の一員として積極的に介入

して解消していく必要があると思っています。

今回、改正された DV 防止法なんですけれども、これは保護命令の基準とあって、裁判所がもう近寄ってはけませんよとか、家から出ていくように命令するために判断する DV の基準なんですけれども、これまでは生命、身体に対する暴力、加害があったときに、裁判所が認めてくれたんです。けれども、今回はそれに加えて、被害者の自由や被害者の名誉または財産に対する加害の告知による脅迫を受けたもの、これも被害として追加されました。例えば、選択の自由です。どういうふうにしたいかということ被害者が選べない状態。それも DV と認められるようになりました。名誉も、このくそ、ばかとか、あいつは頭がおかしいとか、そういうことも名誉を傷つけるという加害行為に認定されることになります。それから財産。財産というのはお金だけでなく、友達関係だって人的財産だし、今まで培ってきたネットワークとか地域への活動とか、そういうものを侵害するような行為というのは、自由、名誉、財産、全部傷つけるということになるので、今回の改正は大変大きいなと思っています。日頃から被害を受けた人たちが、そのモヤモヤを言語化して、この2人の間に何が起きているのか、この2人の関係性はどのぐらい対等なのか、対等でないのかということ調べていくことが大切です。

## ■これを目指すとお互いHAPPY♪ 健康的なパートナーシップとは？

内閣府の調査では DV の被害を受けている人の中で実際に別れたい、別れたという人は 16.2%しかいません。残りの約 84%の方々は別れたいと思っていないとか、様々な事情があって別れられないという人が多いです。まずは自分がどうしたいのか。別れたいのか、別れたくないのかということをしつかりと考えていく必要があります。でも、別れたくないと考えている人が本当にも多いので、ではどうしたらお互いにストレスのない健康的なパートナーシップを築けるかということ学ぶ必要があります。そのために必要な4つのス

キルがあります。まずはジェンダーです。妻役割、夫役割を自分も相手に押しつけない。それから相手に期待し過ぎない。自分自身が縛られ過ぎない。2 つ目はお互いを大切にすること。そのために、自分を大切にすることです。これを必須としてください。自分を大切にできない人は、人を大切にできません。自分ばかり我慢したり、相手ばかり我慢させたりしない。そして、自分の気持ちと考えを大切にすること。そのために、まず自分の気持ちと考えをしっかりと言語化すること。自分の気持ちと自分の考えは別であるということを知ってほしいです。そして、自分と相手はフェアな関係だということを常に意識すること。毎日毎日アンコンシャス・バイアスのシャワーを浴びている生活の中では、これを意識しないと対等の関係が築きにくいんです。だからこれを常に意識する。この4つを押さえておくと、非常に有効だと思います。

私が考える結婚生活は、ピザを一緒にオーダーするようなもの。日々の生活でピザをオーダーするように、色々なことを決定していくということが大切です。お互いの違いはあって当然。違うからこそ夫婦であって楽しい。目的はお互いが満足することですから、2人がおいしかったと思わなければピザをオーダーする意味がないです。決め方なんですけど、こうしなきゃ、というものはないです。方法は無限大なので、その無限大のやり方を構築することが、その夫婦の醍醐味でもあると思うんですね。そういう1つの2人の意思決定のパターンが決まってくると、その2人の関係は良好になっていくと思いますし、何にでも当てはまると思うので、ぜひこれをお勧めしたいと思います。

DV被害というのは、自己決定権の強奪が一番深刻な被害だと言われています。自己決定権って基本的な人権なんです。自分が朝起きてどんな洋服を着て、何を食べて誰と会うかとか、どんな職業に就くかとか、そういうことを全部、本当は自分で決めていいんです。だけど、DVの被害に遭っている人は、それを全部許可がないと生きていけ

ないように支配されています。既にこじれてしまった関係を、これからピザを一緒にオーダーするような関係になろうと言っても、なかなか難しいです。第三者の専門家に介入してもらった方がいいと思います。色々な相談機関がありますし、友人とか親族とか頼れる人にまずは相談してみるといいと思います。そして、被害を受けた人がどうするかは自分で決めていいんです。加害者と別れるのも1つだし、別れずに暮らしていくのも1つだし、しばらく様子を見るということもありだと思います。人の気持ちはコロコロ変わるものです。相談機関の人たちは、それをよく理解しています。でも、相談に行ったから劇的に状況が変わるとは限りません。誰かが魔法をかけてくれているわけではないので、全部自分の力でその状況を変えていかなければならないんです。そのための応援団であるということ意識していただくと、すごく強力な支援軍団を身につけることができます。

ついこの間、東大の先生とお話をしたときに、この世からDVがなくなるのは、この調子でいくと、一番早くて計算上140年後だということだったんです。140年後生きている自信がないんですけども、社会からDVがなくなったときには、ぜひ、また皆さんとお会いして乾杯したいなと思っています。

## ■受講生の感想（抜粋）

- DVはあまり身近に感じる事がなかったのですが、今は、そもそもDVに定義や要因を知ることができて、「あれ？もしや…」と考え方が変わったように思います。
- DVがなくとも、お互い気持ちよく過ごすためにも、健康的なパートナーシップをはぐくんでいけるように、気をつけていきたいと思っています。
- 今回のディスカッションで、皆さんが同じ「あるある」の考えがあることに共感が生まれ、自分だけではないと、心が軽くなりました。
- モヤモヤは対話のチャンス♡

# 多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～

講師：認定特定非営利活動法人 R e B i t

【プロフィール】「少しずつ」を「何度でも」繰り返すことにより社会が前進し、LGBTQを含めたすべてのこどもがりのままで大人になれる社会を目指して、学校へ出張授業や教材の制作、各種イベントの開催などの活動を行う認定特定非営利活動法人。

講義では、多様な性について、その現状やこれまでの経験を中心にお話しいただきました。加えて、多様な性をもつこどもたちを取り巻く課題と取り組みを紹介し、インクルーシブな環境について、今日からできること、「一部のマイノリティのため」ではなく「みんなのため」に多様な性を前提とした環境づくりについてみんなで考えました。

## ■講義内容

### ◆グラウンドルール

### ◆自己紹介

### ◆団体紹介

### ◆多様な性とは

- セクシュアリティとは
- LGBTQとは
- セクシュアルマジョリティとは
- SOGI (E) (SC)
- SOGI インクルーシブな環境とは

### ◆多様な性をもつこどもたちの今

- 国内の取り組み

### ◆こんなときどうする？

- ケース①～④
- カミングアウトとアウンティング
- 相談・カミングアウトに対応する際のポイント
- 大人同士が情報共有する際のポイント

### ◆今日からできること

- アライになろう
- 一人ひとりにできることがあります

### ◆まとめ

### ◆質疑応答

## ■受講生の感想（抜粋）

- ・セクシュアリティの分類があること、LGBTQ について、改めて知識を整理する機会となりました。アライになれるよう、また子どものお手本になれるよう、日常的に性別を限定しない表現をすることや、多様な家族のかたちがあることを想定した対応など、気にかけていきたいと思いました。
- ・とってもお話が聞きやすかったです。実は今回のパルカレッジが私の中では1番聞いたかったものでした。とってもとっても勉強になりました。私の年齢ですと全くLGBTQについて学ぶ場面がなかった事もあるのかもしれませんが理解できていなかったし無意識のうちに自分の子供へ男らしさ等誘導している部分があったと気付きました。誰もが自分らしくいられる環境作り、大切だと思いました。アライになれる様もっと理解を深めたいと思いました。
- ・多様な性、LGBTについて今まで、当事者や身近なものとして意識していなかった自分に気づくことができました。講師の方の具体的なお話を聞いた時、自分を知る、振り返る、受け入れて、生きているお話をきいて自分の気持ちがぐっと動いたと思います。
- ・会社ではLGBTQについてトレーニングを受けています。しかし日常や子どもへの接し方というのは具体的にどうしていくのがよいか悩むこともたくさんあったので、今日お話を聞いてよかったです。絵本は手軽なので、さっそく家で読み聞かせに取り入れたいと思いました。

# 自らのライフキャリアをデザインする

講師：神奈川大学人間科学部教授 荻野佳代子

【プロフィール】キャリア・ジェンダー・ストレスをキーワードに、看護職や教員など“対人援助職”を対象にした「バーンアウト（燃え尽き症候群）」について研究。最近の研究テーマでは「ワーク・ライフ・バランスとバーンアウト」がある。また、男女共同参画の視点からライフキャリア教育に取り組む。



## ■ワークキャリアと「ライフキャリア」

キャリアのもともとの語源は、荷馬車が通った道筋、轍（わだち）のことなんです。自分の生き方を荷馬車の通った轍のように振り返ってみる。ただ、キャリアというのは比較的、仕事や職務内容などのワークキャリアのほうに意味合いの重点が置かれています。広い意味でのキャリア、仕事以外の部分、家庭生活、地域との関わり、個人の活動などの全部を含めた生き方を指す「ライフキャリア」についても問われる時代になりました。今、なぜライフキャリアなのか。VUCAの時代ということがいわれています。変動性（Volatility）の激しい世の中、社会であり、不確実性（Uncertainty）が高い。非常に複雑性（Complexity）の高い世の中であり、曖昧（Ambiguity）である。いくつかの要素を考えていくと、グローバル化、技術革新、少子高齢化が挙げられます。その中で、私たちは、新たな視点や考え方を身につけながら、今後の生き方、キャリアというのを考えていく必要があるのではないのかなと思います。

## ■ライフコース＝多様な生き方

典型的な女性の生き方、ライフコース（個人が一生の間にたどる道筋）とみなされているものとして、専業主婦コース（結婚や出産を機に退職し、その後は仕事を持たない）、再就職コース（結婚・出産を機に退職し、子育てが一旦落ち着いた後に再び仕事を持つ）、両立コース（結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける）、DINKSコース（Double Income No Kids 結婚して一生共働きで、子どもを持たない）、非婚就業コース（結婚せず仕事を一生続ける）があります。一方で、典型的な男性の

生き方（結婚しても子どもを持って仕事もずっと続ける）は、比較的単線的ですね。しかし、本当は多様な生き方は、男女ともに考えられるものであり、典型的なライフコース以外にも、もっと多様な生き方が広がってきているのではないだろうかということが言えます。

## ■「統合」的キャリア発達

ハンセンという研究者が、キャリアというのは、家庭における役割から社会における役割まで人生の全ての役割が含まれていて、それは統合されると言っているんですね。人生には4つのL、仕事・労働（Labor）、愛・家族・子育て（Love）、学習・教育や学び（Learning）、余暇、仕事以外の活動（Leisure）の役割があり、それがキルト（パッチワーク）のようにバランスよく統合されてはじめて個人として意味ある人生になるのではないかと、いうことを提唱しました。そのために6つの課題を指摘していて、広い視野に立ってキャリアを選んでいくこと、複数の役割のバランスを統合していくこと、家庭と仕事のバランスを取り、パートナーとの関係をうまく統合して共に生きていくこと、多様性を活かすこと、個人の人生の変化、企業・組織の転機に対処できるようにすること、最後は一番大事なことで、自分の人生や仕事に喜びや意義を見つけられるように、生き方を考えていくことを言っています。

大事なことは、無理せず、自分らしく、状況に応じて柔軟に生きていけるような一人ひとりのキャリアであり、それができる社会になっていくということが求められるのかなと思います。

## ■受講生の感想（抜粋）

- 普段時間をとって今後のライフキャリアを考えることがなかったので、実は色々やってみていたことがあることに気がつく機会となりました。定期的に振り返りながら、考えていきたいと思えます。
- 今後どのようにして生きていきたいか、やりたい事、趣味、仕事も含めてそれまでの仕事の経験のみでなく子育てや家事、介護なども全てでライフキャリアとして自分の経験値となるんだという考え方にすごく納得した。
- 普段の生活の中で、自分の“5年後、10年後の姿”を想像する場面は、なかなか無く、今回はゆっくりとその姿について考える時間があり、いろいろな自分を想像できました。自分は何が好きなのか？どんな自分が好きなのか？どんなライフスタイルになっているのか？家族はどうか？改めて、じっくり考えることで、自分にはたくさん可能性があり、そのポテンシャルもあるのではないか？と自信ができました。今のほぼ100%が子育てと家事の生活がどうなっているのか、楽しみになりました。
- 将来どうなっていたいかは日々なんとなく考えているものの、あまり深く考えることができていなかったのが、今日のワークで改めて考えることができました。またゆっくり考え、自分がHAPPYになるライフキャリアをデザインしたいなと思いました。
- 5年後の自分のライフキャリアを考えたとき、仕事、愛・家族、学習、余暇・地域の4項目すべて、まんべんなく記入することができた。最近、こうありたい、こんなことをやりたいと、頭の中でぼんやりと描いていたが、言語化することによって、実現できそうな気がしてきた。今後は、実現するためにはどうすれば良いか、具体的なアクションプランを立てたいと思う。
- 自分の将来を具体的にイメージする方法が勉強になりました。
- 自分のライフキャリア…、受け身や流れに任せるでなく主体的に、そして具体的に目標をたてて歩んで選んでいきたいと感じました。ワークで自分の内にあるものを少し整理し、アウトプットできたこと、また、シェアする為に自分の言葉で相手に伝えたことは、目標を立てその一歩を始めるにあたり、背中を押す作業だと思いました。
- 最後の講義でこれまで学んだことを振り返り、今後どのように生きていきたいか目標を立て、更にはそれをみんなに宣言したことで、目標を立てっぱなしにするのではなく実現させようと強く思えました。たぶん講義を聴くだけでこのパルカレッジが終わっていたら、学びっぱなしになり学んだことをどう活かしていくべきか考えることはなかったと思いますが、現地で他の参加者と議論し最後に言語化して発表するところまでしたのが良かったと思います。
- ふり返りのわずか5分で、お隣の人とこの7回の学びを交換したのは喜びであり、この数週間の自分たちの小さいけれど大切な変化や成長に気がつけた。ライフキャリアデザインで、自由に表現したこと、お隣の人とシェアして受けとめていただいたこと、楽しみました。実現へ向けて1, 2, 3, と進みます。
- ワークを行うことで自分の今後を考えてみて、自分にはまだ時間も体力、やる気もみなぎっているからこそその将来を考えることができました。専業主婦ではありますが、自分を生かせる場で仕事、ボランティアをやるきっかけを頂きました。
- 自身のLife careerについて考えることができて充実した時間でした。

## 第31期 江東区パルカレッジを終えて（受講生19名、17名提出）

### （1）今後の地域活動（男女共同参画関連団体、NPO、ボランティアなど）への参加について

- a 現在も参加しているが、今後も参加していこうと思う。（2名）
- b 現在は参加していないが、今後は参加していきたいと思う。（14名）
- c 現在は参加していないし、今後も参加しないと思う。（0名）
- d その他（現在は参加していないが、興味はある）（1名）
- e 無回答（0名）

### （2）今後の学習の継続について

- a 今後も学習講座等に参加あるいは、自主学習グループで学んでいこうと思う。（17名）
- b 講座等には参加しないが、自分で学習は続けていこうと思う。（0名）
- c 特に学習はしないと思う。（0名）
- d その他（0名）
- e 無回答（0名）

### （3）全8回のカリキュラム（公開講座を除く）のなかで、特に印象に残った講義は何ですか。（複数回答可）

No.	日程	カリキュラム	講師	回答
1	5/18（木）	ワタシの中の性別役割分担意識を知る	神奈川大学人間科学部 教授 荻野 佳代子	0名
2	5/25（木）	身近にあるジェンダー・バイアス ～それって本当にアタリマエ？～	公益財団法人日本女性 学習財団学習事業課長 池田 和嘉子	7名
3	6/1（木）	見えないものが見えてくる ～メディアの見方、とらえ方～	メディア総合研究所所長 谷岡 理香	8名
4	6/9（金）	ワタシたちをとりまく社会の変化 ～ジェンダーへの視点を中心に～	明治学院大学社会学部 教授 加藤 秀一	3名
5	6/22（木）	家族みんなで楽しく暮らす！ ～ご機嫌に過ごすための家事半分術～	家事研究家 佐光 紀子	4名
6	6/29（木）	身近にあるDVに気付く ～自分も相手も尊重しあえる関係を作るために～	一般社団法人エープラス 代表理事、自治体DV専門 相談員 吉祥 眞佐緒	4名
7	7/6（木）	多様な性ってなんだろう？ ～互いの違いを受け止めあえる社会を 目指して～	認定特定非営利活動法人 ReBit（リビット）	10名
8	7/13（木）	自らのライフキャリアをデザインする	神奈川大学人間科学部 教授 荻野 佳代子	5名

**(4) 第31期のパルカレッジを振り返って感じたこと、今後のパルカレッジに対してのご要望(カリキュラム・回数)などがありましたら、お聞かせください。**

- すべての回において、すごく難しい専門的な内容ではなく身近なことを題材にカリキュラムが組まれていたのですんなりと講義に耳を傾けることができました。自分自身に心当たりがあったり、日頃思っていたことが内容に含まれていると、どんどん自分の中に意見や感想が生まれ、それを発言することも自分にとって良い経験になったと思います。パルカレッジを修了してから、人と会って話したり子ども、家族との会話をする際には、“自分が当たり前だと思っていることは相手にとってはそうではない”そんなことを考えながら日々過ごしています。貴重な機会をありがとうございました。
- どの講義内容も、おおまかに知っているものでしたが、言葉の定義やデータに基づく時代の変化など詳しく知ることで、より身近に感じる内容となりました。また、子育て中のこの時期に学べたことは、これから生きる子どもたちのためにも活かしていきたいと思います。
- 子供ありきだったので集中しきれず…でも大いに学べたのでよかった。全講座通して、同じフォルダに収納される内容で、でもその中で少しずつ視点が異なり、視野や思慮が広がったと思う。1回の講座、長く感じた…。また参加したい。お世話になりました、ありがとうございました！
- とても充実した時間を過ごすことができました。専門家の方から生の声、研究、意見を聞くことができ、大学の講義を久しぶりに受けているようで、とても刺激的で、学んで楽しいなど改めて感じました。無料で受講させてもらうにはぜいたくすぎる内容でした。非常にありがたかったです。ありがとうございました。
- 今回学んだことによって社会に起きる問題をより自分事として考えられるようになりました。様々な問題を専門家の方からお話を聞いてとても勉強になりました。ありがとうございました！
- 退職のタイミングでこの講義を受ける事ができて大変参考になりました。講義の度に優しい気持ちになれました。
- 今まで性別や年齢、母親など昔からの無意識の思い込みや慣習などにすごく縛られ窮屈な、なんで？という思いをしてきました。今回、社会の変化や多様な性、メディアの見方、DVなど様々な視点から考え、学び、この急激に変わりゆく現代の中で色々な物、事にとらわれる事なく全ての人々が自由に自分らしくのびのびとくらし、ゆける社会になっていけるよう、自分も社会全体も意識して取組んでゆきたいです。
- 毎回のオムニバス形式の講義は、普段の生活ではなかなか出会えない講師の先生より、新鮮なお話を聴くことができ、とても勉強になりました。バックグラウンドが各々異なるメンバーとのディスカッションも、学生時代に戻ったようで楽しく、捉え方や価値観が異なることを改めて気づかせてくれました。今回を機に、ジェンダーについて学び続け、家庭、仕事や地域に活かしていきたいと考えております。ありがとうございました。
- 大変、大変充実した有意義な時間でした。全ての講義が新しい発見で楽しく学べました。内容が未知の分野でしたが、非常に理解しやすく、偏見を違和感なく無くしていく講義で心が軽くなりました。ありがとうございました。平日の午前中の講義は、限られた時間の持ち主しか参加できないのが残念だと思いました。難しいとは思いますが、センターのお休みを連休で平日にして土日開催し、たくさんの方に参加して頂きたいし、そのくらい価値の高い内容だと思いました。
- 5月からカレッジが始まり、本当にあっという間の8回講座でした。毎回行くのが楽しみで、こうやって自分の意見を他の方と交わす機会がとても貴重でした。色んな方の考えをきき、こんな考えがあることに気づかされたり、良い機会でした。終わってしまうと、まだ物足りなく、あと半分の量の講座を受けたいと思うくらい楽しかったです。2023年上半期に自分の考えや価値観などを知るチャンスがあったので、下半期も何かやれることがないか模索していきたいです。今回のパルカレッジに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。



- それぞれの講座で、新しい知識を得ることができ、毎回楽しく新鮮な気持ちで通わせていただいております。「もっと学びたい」と思わせていただけてとても良い機会だったと思います。“学び”を止めず、今後も進んでいきます！
- 大変貴重な時間を過ごせました。性別、年齢関係なく自由にゆるく話すことで様々な気づき、学びがありました。カリキュラム、回数、時間ともに良かったと思います。ありがとうございました。
- 毎回の講義では、自分のせまくなっていた視野や気づいていない部分にハッとさせられることも多くありました。今の自分を知ること、はばたくためには大切なことだと毎回感じたことです。今の自分を知り、気づき、受け入れることから始めようと思います。
- 子育て中に受講できてよかったです。自分の偏った考え方に気づけたり、子供たちに教えたいと思う内容ばかりでした。ビジネスに必要なダイバーシティの考え方は最近では各企業が社内研修を充実させていると思いますが、ビジネスに関係なく大切なトピック（夫婦間の家事分担、DV など）の学習を区が整備してくれているのはとてもありがたいです。可能なら全江東区民に受講してほしいと思います。また、わたしは別室受講でしたが、講師が別室にまで来てくれたため一体感を感じられましたし、初回と最終回に区長さんが来てくれたのもモチベーションが上がり嬉しかったです。
- Topic はとてもおもしろかったのですが、pre-read などにして当日はもっと Discussion ができるようにした方が、自身が考えることができると思います。また、work もふやした方が充実すると思います。
- 欠席した回もありましたが、知らない事を知れる学びの時間を頂けた事に感謝しています。どんな事にも最善を尽くしながらこれからも生きていけたらなあと思います。カリキュラム、回数について月に1度の1年間コースなども楽しいかと思いました。
- 全体を通して、①参加者が何かを目指す（学ぶ目的の設定）方式が望ましい。併せて「目標設定」を能力／技術として学ぶ機会にもなり得ます。②講義形式から共に学びや疑問をシェアしあう形式へシフトすることを推したい。ふり返りの時間を段階的に増すことで、参加者の未消化を減らし、満足度が高まる。個人的には6/1と6/22の会のふり返りやシェアの時間をたいへん楽しめました。また、7/6のリビット講師の先生のファシリテーションが非常に聞きやすく、理解が深まるだけでなく、自分事として考える機会になり、その結果良い意味で疑問を感じたり考えさせられました。③共に学ぶ人たちの参加意識の高さがすばらしかった。今後、30年後くらいに視野を拡げて対話形式で学ぶ機会が欲しいです。運営して下さる皆様には毎回の設定や案内に、細かな気配りに感謝します。お世話になりありがとうございました。



# フォトメモリー



第31期

江東区パルカレッジ

公開講座

令和5年10月1日（日）

「女性が働くということ

～私のアナウンサー人生～」

講師：吉川 美代子

（キャスター・アナウンサー・京都産業大学客員教授）

## 公開講座「女性が働くということ～私のアナウンサー人生～」

講師：吉川美代子（キャスター・アナウンサー・京都産業大学客員教授）

【プロフィール】1954年生まれ。神奈川県出身。早稲田大学教育学部卒業。  
1977年TBS入社。37年間アナウンサー・キャスターとして活躍する一方、TBSアナウンススクール校長を12年間勤め、2014年に定年退職。フリーアナウンサーとして各局のバラエティ番組などに出演。2017年より京都産業大学現代社会学部客員教授も務める。



### ■小学生の頃からアナウンサーになりたかった

私が大学を卒業してアナウンサーとなったのは昭和52年。TBSは9年ぶりの女性アナウンサー採用でしたが、男女の賃金差もなく、メディアの世界はいろんな意味で男女平等だと思っていました。ところが、放送局は圧倒的に男性社会でした。当時は男女雇用機会均等法もありませんし、女性アナウンサーの仕事は男性アナウンサーの補佐的なものばかり。新人研修の期間中にこんなことがありました。新人アナとラジオ報道局若手記者との飲み会で、どんな番組がやりたいかと聞かれて「報道やりたいんです」という話をして、その日は和気あいあい終わったんです。でも、翌朝アナウンサーラジオ報道局のデスクから呼び出され、会いに行ったら、デスクの男性がいきなり「女のくせに報道やりたいなんて、お前は生意気なんだよ！女に政治や経済がわかるか！」って、すごい声で怒鳴ったんですよ。私、悔しいとかじゃなくて、ただただびっくりして…。実際、研修が終わったら女性は当然のごとく芸能班に入れられて、なかなか報道の現場に行くチャンスってない。ですから、空いている時間は必ず報道班の男性アナウンサーたちがニュースを読むスタジオにいて、見学させてもらったり、取材に同行したり。入社5年目の秋に報道局長から朝の大型の報道番組の話をいただいて、「もちろんやります」と。そして半年間、政治部で記者の修行をしました。実際に現場で取材してニュース原稿を書いたりしました。その時に初めて、報道のアナウンサー、キャスターたちというのは、原稿に書かれた文字を音に変えてただ読み上げているのではなく、書かれた内容を理解した上で伝えているんだと。私がやりたいと思っ

ている報道のアナウンサーの仕事というのは、伝えることなんだと実感しました。実際に朝の報道番組が始まってみると、私よりも若い記者が原稿を書いて編集長に持ってきた時に「俺の書いた原稿、女に読ませないで！」と言ったんです。女がニュース読むなんてあり得ないと思っている人が圧倒的に多いんだと愕然としました。「女は報道に向かない」という人を「女でもできる」と認めさせなきゃだめだと思ったので、本当にあらゆる勉強と努力をしました。そして一年半後に、夕方のJNN系列のメインニュース番組「ニュースコープ」の女性キャスターに決まって…。見ている人はちゃんと見てくれているんだと思いました。

### ■若いときは前しか見ていなかったけど…

私は、大学を出てから定年まで1つの会社にいました。若いときは、前しか見てなかったし、主語は自分でした。でも副部長、部長、局長と昇進するたびに、視野がどんどん広がり、主語も「報道アナウンサーたち」「アナウンス部員たち」「TBS社員」と変わってくるんです。1つの会社で仕事をやり切ったことで、自分自身が成長できたと思っています。私は第一の局アナ人生を達成感とともに終えたので、第二のフリーアナ人生もいい感じでスタートできました。

### ■結果の平等ではなく機会の平等を

今は女性活躍の指標として「管理職や役員や議員の何割」と数字で結果の平等だけを目指しています。本来は、機会の平等を与えるべきです。そして、その人の能力と実力に合った評価をして、女性活躍の機会と場を作ってほしいのです。

2023 江東区パルカレッジ 公開講座・受講アンケート	講演名	女性が働くということ ～私のアナウンサー人生～	10月1日 (日)
--------------------------------	-----	----------------------------	--------------

◆参加者：159名 アンケート回収：155枚 提出（回収率）：97.4%

◆参加者層 ①一般応募：141名 ②江東区男女共同参画審議委員：1名

③パルカレッジ受講生：10名 ④無回答：3名

◆パルカレッジ公開講座への参加

①はじめて：105名 ②2～4回目：27名

③5回目以上：4名 ④無回答：19名

◆年齢

①10代：0名 ②20代：3名

③30代：18名 ④40代：35名

⑤50代：48名 ⑥60代：28名

⑦70代以上：21名 ⑧無回答：2名



講師：吉川 美代子 氏

◆職業（複数回答可）

①専業主婦（夫）：27名 ②フルタイム勤務：61名

③パートタイム勤務／時間短縮勤務：30名 ④派遣社員：11名 ⑤アルバイト：0名

⑥自営業：3名 ⑦介護中：0名 ⑧産休中／育休中：3名 ⑨学生：0名

⑩無職：16名 ⑪その他：4名 ⑫無回答：1名

問1 本日の講演会をどこでお知りになりましたか。（複数回答可）

①こうとう区報：101名 ②パルカレッジ案内リーフレット：15名

③区ホームページ：11名 ④チラシ：11名

⑤区内掲示板：11名 ⑥友人・知人の紹介：7名

⑦江東区公式 twitter：0名 ⑧江東区公式 facebook：0名

⑨江東区公式 LINE：4名 ⑩その他：6名

⑪無回答：2名

**問2 本日の講演会に参加された動機を教えてください。(複数回答可)**

- ①テーマ・内容に興味があったから：107名
- ②この講師の話が聞きたかったから：109名
- ③友人・知人に誘われたから：4名
- ④江東区パルカレッジに関心を持っているから：10名
- ⑤保育がついていたから：8名
- ⑥何かきっかけがほしかったから：10名
- ⑦知識・教養を高めたいから：28名
- ⑧その他：5名  
(手話通訳がつくから／吉川美代子さんが好きだから／仕事に対する心持ち(心得)が学べると思ったから等)
- ⑨無回答：0名

**問3 本日の講演会の内容はいかがでしたか。下記にご意見・ご感想を自由にお書きください。**

- ①期待以上：83名      ②期待どおり：59名      ③どちらでもない：2名
- ④やや不満：0名      ⑤不満：0名      ⑥無回答：11名

**(以下、自由意見)**

- ・ 機会の平等>結果の平等 まさにそのとおりだと思いました。
- ・ 女性として一つの企業につとめることについてよくわかりました。
- ・ どのお話もとても興味深く、あっという間の時間でした。ありがとうございました。
- ・ 明るい表情でとても有意義なひとときをありがとうございました。
- ・ 言葉に重みがあり、これから生きる力が湧きました！
- ・ 会話のキャッチボールの話、よく理解できました。
- ・ 前向きな考え方がとても参考になりました。
- ・ 吉川さん素敵な女性だなと思いました。参加させて頂けて良かったです。私も素敵に年を重ねたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 仕事へのプロ意識が感じられ共感できた。
- ・ 興味深い話でした。質疑応答もよかったです。学びになりました。
- ・ 貴重なお話ありがとうございました。社会人の大先輩として、少しでも近づければと思います。がんばります。
- ・ わかりやすい話しかたで、時間が短く感じられました。また違うテーマでお話をお聞きしたいです。
- ・ とても良いお話でした！！
- ・ 言葉の意味を理解して、体験したことを自分の言葉にしていきたいと思います。

- ・仕事の悩みが少し軽くなった。
- ・苦労話をここまで大きくことができてよかった。数を揃えることではない点については納得がいった。質疑応答においても明確にお応え頂き、ありがとうございました。
- ・沢山の経験をされてきた吉川さんのお話は、とても面白くあっという間の時間でした。テレビでお見かけしてきた頃より、ますます素敵な方だと思いました。憧れます。良かったです。
- ・とても楽しかったです。
- ・言葉は会話のキャッチボール、相手によって投げる球が違うというのは、なるほどと思いました。
- ・この度はこの会を企画していただき、ありがとうございました。これからの人生100年時代で自分の心の中に今までがんばったってものがあるのとないのとは違うという話がとても印象的でした。
- ・ご経験に裏打ちされたお話でしたので、奥行きを感じられる講演でした。有難うございました。
- ・たくさんのお話を聞かせていただきありがとうございました。
- ・誰に向かってキャッチボールをするのか、とっても大事な内容でした。
- ・しつもんができなくてごめんね。
- ・とても興味深くためになるお話でした。・言葉のコミュニケーションの話は今の仕事に結びついて理解しやすかった。
- ・「機会の平等」のお話は自分自身感じていたことで、とても勉強になりました。
- ・おもしろかった。明日から元気にいきいけそう。
- ・アナウンサーの方なので、当然かも知れませんが、話にまとまりがあり聞きやすかったです。華やかな世界というイメージでしたので、入社から色々ご苦労されていたということに驚きました。会話のキャッチボールの話は実体験上でも納得できました。ありがとうございました。
- ・吉川氏の言葉が「伝わる」理由がわかった気がします。今後のコミュニケーションにおいて「伝わる」コミュニケーションが取れるようにしていきたいと思います。
- ・年齢を感じさせない吉川さんのお話に夢中で聞きました。熱量がものすごく私もパワーをもらいました。64才ですが、明るい将来が見えてとても楽しい2hでした。
- ・自分がばくぜんとならんで悩んでいた性差別を本当はとても嫌だと感じていることを知れたり、自分の気持ちと向き合うことが出来ました。強引に動くなどではなく、あくまで自分の中での「納得感」など、すぐに生かせそうなお話も聞けて、明日から何かトライしてみようと思えました。
- ・時間が長いのではと思いましたが、あっという間に時間がすぎて、内容もおもしろかったです。参加できて良かったです。
- ・今のご活躍には長い努力があつての事だと思いました。私もがんばらねば...
- ・全力で努力をおしみなくやり評価され認められた人間は、人に対してかん大になれる。吉川さんはとてもすてきな人生を過ごされている方で感動しました。
- ・言葉に内容をもたせるといふことに感銘をうけました。仕事にすべてうちこまれていたお話、興味深く伺わせていただきました。

- ・人生... 真心...。質問コーナーは、良かったです。
- ・自分との立場に合った講演と少しずれている感じでしたが、吉川さんの講演はとても楽しかったです。
- ・経験をふまえての話がよかったです。質疑応答が素の吉川さんの話を聞けた気がします。皆さん、何かこれからの指標や、アドバイス、かわるきっかけを求めにきてるのだと思います。
- ・生で美しい声のお話が聞けて、とても明るい気持ちになれ、よかったです。
- ・印象に残った話・文字を読むだけのニュースと経験を通して話すニュースは伝わり方が全く違ってくる。・女性の「何割」は結果より機会に注目してほしい。ボスザルの話もおもしろかった。お話しされる時の表情もとてもイキイキしていて、ヒールでリンと立っていて見習いたいです。
- ・言葉の大切さにあらためて感じることができました。
- ・さすがアナウンサーさん、とても聞きやすいし話が分かりやすい。引きこまれました。あっという間の1時間でした。私も吉川さんのおっしゃる通り「健康」が1番大事だと思いました。「人間力=相手への気遣い」の話が心に残りました。
- ・またお話を伺いたいです。ありがとうございました。
- ・やはり吉川さんのお話はお上手で聞きやすく、ためになりました。これからも言葉の重みを大切に、自分の今までが間違えていなかったと、自信になったこと、さらに前を向いて生きて行こうと強く思いました。
- ・台本通りという感じではなく、ご自身の言葉で伝える話し方だったので、最後まで興味深く聞くことができました。女性の活やくについて、結果の平等ではなく機会の平等を重視したいという言葉が印象に残りました。明日からも頑張ろうと思えました。
- ・74才です。1年前に事務職を辞め、のんびりと過ごしてきました。また仕事をしたいと職を探していますが、年令でカベがあります。まだまだ健康で元気です。お話を聞いて、ますます元気が出ました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。個人の能力、実力をみてる社会！！そうであって欲しい。それぞれの個にそれぞれの能力、実力があるはず...。共感することが多い講演でした。
- ・年令にかかわらず、気持ち・気力が重要。健康、元気のもと。
- ・吉川さんのアナウンサー人生がとっても素晴らしくて人間力のお話も勉強になり、楽しい講演でした。
- ・人生の生き方とてもためになりました。少しは希望を持って生活をしようと思えました。お話とても良かったです。
- ・話の内容にとっても引き込まれました。また、1人の仕事人として、共感できる部分も大いにあり、とても有意義な時間となりました。
- ・とてもステキな話が聞けて良かったです。今後自分がまよった時などに吉川さんの言葉を思い出して仕事育児等、さまざまな分野で楽しく健康にすごしていこうと思います。本日はありがとうございました。
- ・吉川先生、原稿などもたずにとずっと脱線することもなくお話しされていて、とても頭が良い方なのだな、と思えました。お話にとっても引き込まれました。本日はありがとうございました。



- ・人間力のある講師の方の一般論でない内容で、共感できました。“男女”ではない、とらえ方が他の講師とちがうと思いました。やりきろう！と思えました。
- ・とても実務的にも参考になるお話でした。共感することも多く、吉川さんのこれまでの努力が実になった話なので、素直にきけました。
- ・頑張っていて生きていこうと思いました。素晴らしいお話ありがとうございました。
- ・言葉ひとつの、「おもみ」を大切にしていきたいです。身体健康と精神（心）健康も忘れていたように思います。意味のある言葉として、相手に伝えていきます。本日は、ありがとうございました。
- ・アナウンサーの滑舌良さを聞いてよかったです。
- ・2時間があっという間でした。常に仕事や相手に誠実に全力で向き合ってきた結果、今の輝きがあるのだなと感じました。ありがとうございました。
- ・第1の人生を満足に終わらせないと、次の第2の人生がマイナスからになるという言葉がとても心に残りました。今ちょうど仕事や家庭でのことで第2の人生にいかどうかだったので、今の心残りをさせないようにして、次にステップしたいと思います。とても良い話ありがとうございました。
- ・平日頃考えている事を伺えてとてもスッキリしました。私は氷河期第一世代なので「機会の平等」はとても響く言葉でした。
- ・私にとっては少しだけ人生のセンパイである吉川さんが今現在も光り輝きながら、生き生きと人生を楽しんでいらっしゃる姿に本当に感動しました。私も意義のある長生きをして行きます。
- ・会社員として定年まで勤め上げた事は、とても尊敬します。仕事を辞めたいと思うことはなかったか、また、そういう時どうしたか質問したかったです。
- ・産休中であり今後のことに不安もあった中、元気をいただきました。ありがとうございました。
- ・とてもよいお話だったので、ぜひYouTubeで流してほしい。
- ・楽しかったです。前向きな気持ちになれました。
- ・素晴らしい講演でしたが、キラキラと輝き走り抜けていらしゃるので、自分と照らし合わせて同じようになれるか（目指せるか）と思えなかった。（共感が難しい）でも話をきけて良かった。元気をもらえました！！
- ・楽しく話しが聞けましたが、もう少し質疑応答ができたらもっとよかったですと思います。
- ・現場の裏話がとても興味深く思えました。男性社会、実力（本物の）ある女性の進出に世界をみたい。
- ・仕事の話など非常に参考になった。
- ・人生のお話もですが、質問に答えてくださった際のアドバイスのお話良かった。
- ・現実に即したお話やアドバイスが、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・一生懸命、悔いないようにやる事が近道と思いました。
- ・吉川さんが定年まで勤められたということが女性アナウンサーとして途中で辞めていく人が多いので、とても嬉しく思います。（私も）年齢が同じ位で女性で初めてとかいうことが多く大変だったけど、定年まで勤められたことが良かったなあとも今でも思っています。とても楽しい話で良かったです。

- ・働くということを考えるきっかけになった。同じ気持ちなんだ！こんな事あるある、と思うことが多く、また明日から仕事をがんばろうという気持ちになれた。
- ・とてもいい話がきけてよかったです。勉強になりました。男女差、年齢差のことや、機会の平等などつくづく「そうだ！」と思います。
- ・大変おもしろかったです！！
- ・年、性別の差別をつねに感じていて、とても生きづらい日々です。吉川さんの仕事に対する気持ちと同感で、自分の気持ちをコントロールして残りの人生色々な経験を楽しく過ごしていこうと思いました。私もボス的な存在のいる所は自分の時間のムダですね。
- ・ためになる話しが聞けて良かった。話上手なのは、アナウンサーだと思った。
- ・期待以上の内容で勉強になりました。私もこれからの人生の生きかたを考え、思考して行きたいと思います。
- ・男女差別の時代に大変だったんだなあと思いました。
- ・女性としてひとつの会社で成功された方なので、歯切れの良い楽しいお話でした。
- ・200名の受講者で広すぎず会場で間近での講演をきけたのがよかったです。内容とてもよく、うなづきながらきけてた内容の講演聴講でした。・ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・本当の実力のおりの社会があるのなら、争いはおこらないと思いますが、とにかく男女差別をうけてきたので、生きづらい世の中です。

令和5年度 第31期江東区パルカレッジ 記録集

令和6年3月 印刷物登録番号(5)84号

編集発行 江東区  
総務部男女共同参画推進センター  
江東区扇橋3-22-2(パルシティ江東内)  
電話 03(5683)0341

印刷所 株式会社マイハラ  
江東区東陽5-19-12  
電話 03(5632)2381



※受講生感想につきましては、原文のまま掲載しております。

